



2025年度夏季海外研修 BEVI分析結果

Discover your potential

SOKA University

2025年度 夏季実施研修 (全参加者数136名 全学部生の2.4%)



主催	研修名	参加者数	目的
国際部	グリフィス大学研修	15名	研修
	ラプラプセブ国際大学研修	20名	研修
	魯迅文化基金会紹興市サマーキャンプ	18名	研修
	トゥンクアブドゥルラーマン大学研修	17名	研修
	建国大学研修	11名	研修
	オストラヴァ大学研修	7名	研修
	ケニア・ボランティア	13名	ボランティア
	LAインターンシップ (回答者数の不足によりデータ作成不可)	1名	インターンシップ
WLC	イースト大学研修	32名	研修
経営学部	GPカナダ (回答者数の不足によりデータ作成不可)	2名	研修

■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない(例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦闘、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い/不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfilment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的性向) 【低】 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例: 「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社交的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】 宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものと考え、 「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

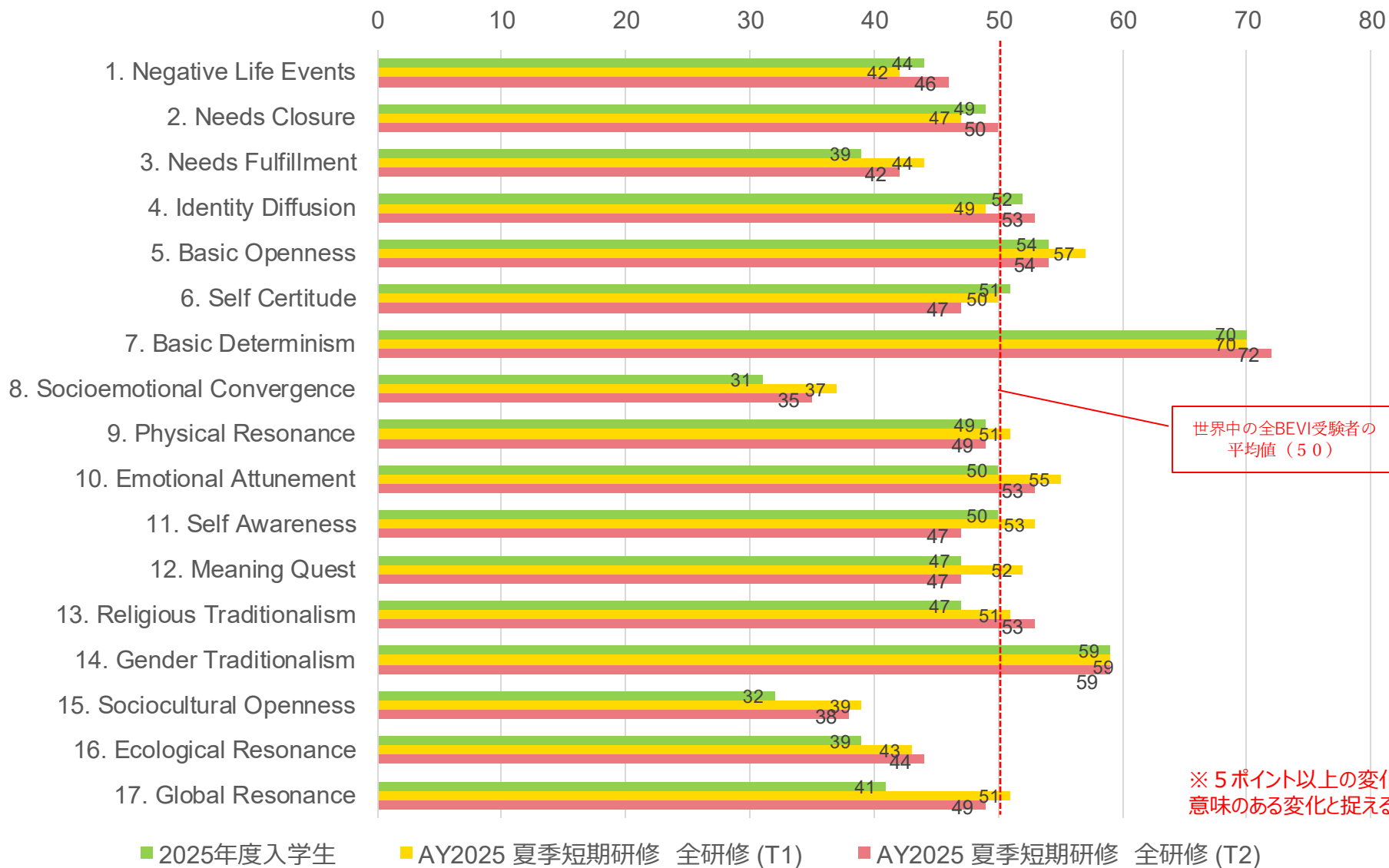
viii. 世界の理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

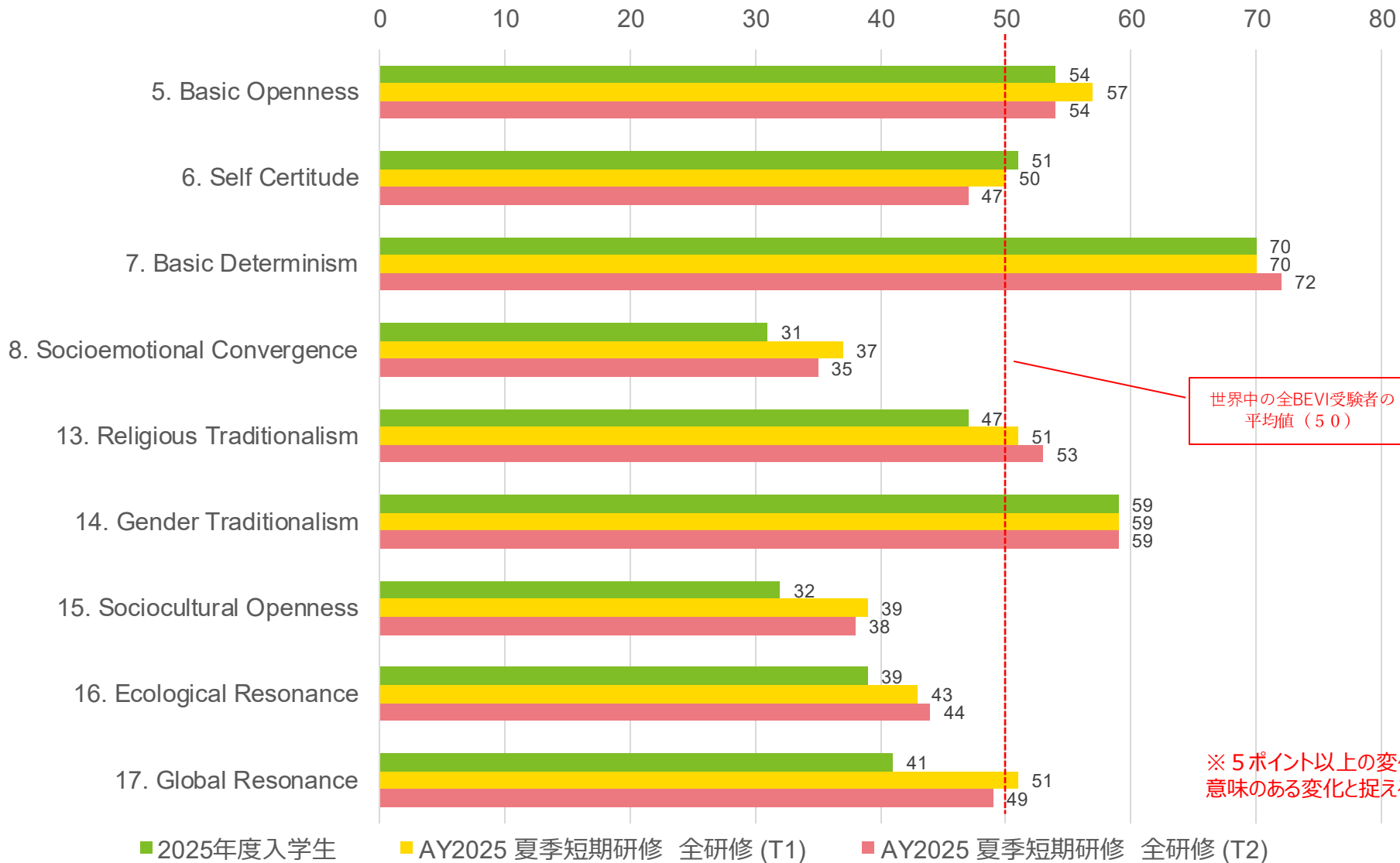
まとめ（全体）

- 夏季海外研修に参加している学生層と2025年度新入生の平均値を比較 →スライド5
 - 国際性や社会文化的にオープンな度合いが高い学生ほど、短期研修に参加者する傾向にあると推測される。ただし、研修によっては2025年度新入生の平均値よりも低い場合もみられる。（例：ラプラセブ国際大学研修）
- 尺度 5～8, 15～17について →スライド7～16
 - 研修全体の平均値の変化では、尺度11(自己認識)のみに研修前後で変化が見られ、その他の尺度には大きな変化はなかった。
 - 研修別で見ると、マイナスの変化を示す研修もある中で、ケニア・ボランティアでは、尺度15(社会文化的オープン性)、尺度16(生態との共鳴)、尺度17(世界との共鳴)において研修後のスコアが上昇する傾向が見られた。
 - 「フルスケールスコア別に見る国際性の尺度」では全体的に大きな変化は見られなかったが、中間の学生層では尺度17の数値が減少している。
 - 「語学力(学生の自己申告)別に見る国際性の尺度」では、ある程度話せる学生層で尺度16(生態との共鳴)の数値が減少している一方、尺度17(世界との共鳴)の数値は増加している。

「AY2025新入生」と「AY2025夏季海外研修参加者(T1,T2)」の比較



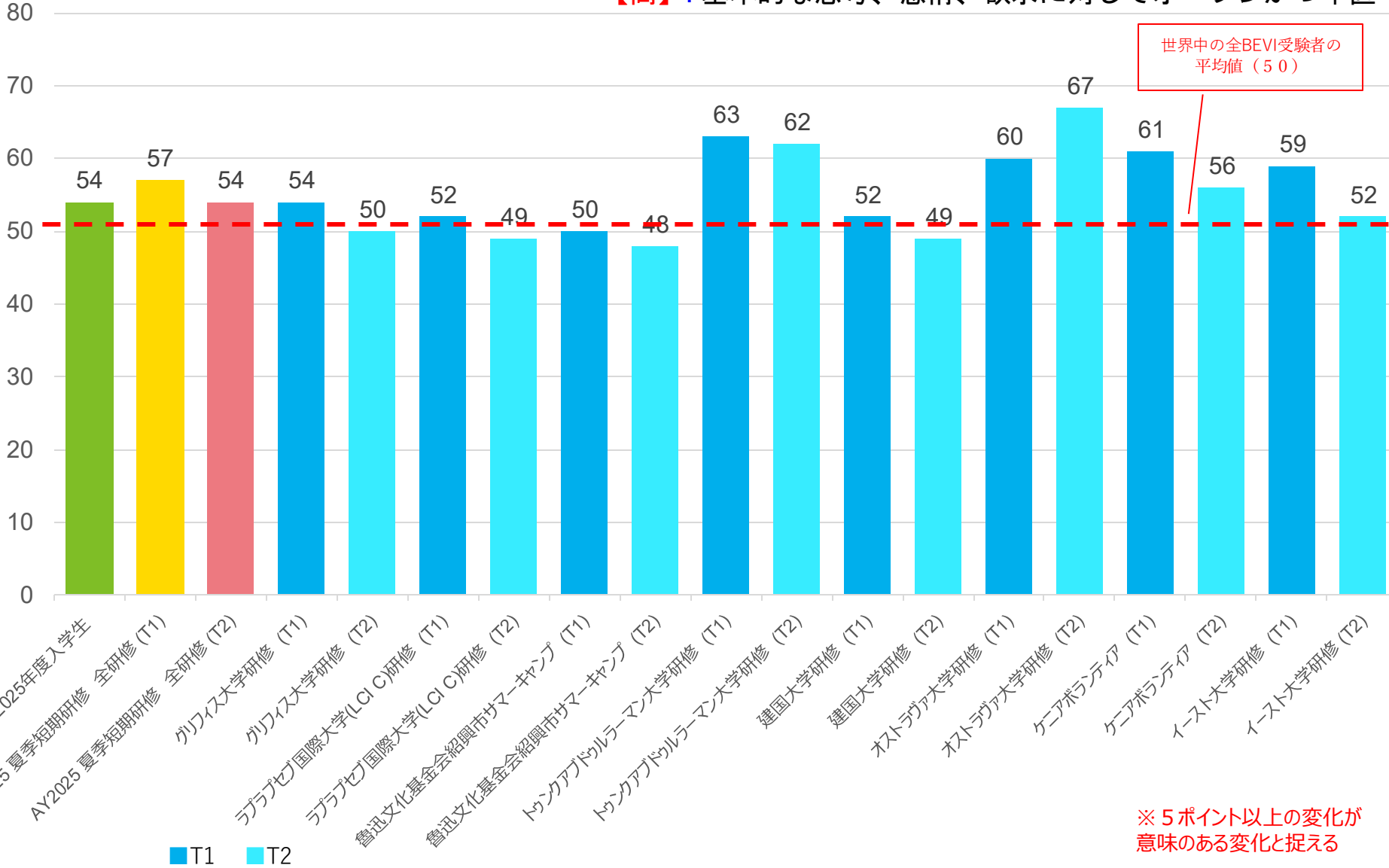
「AY2025新入生」と「AY2025夏季海外研修参加者(T1,T2)」の比較 (尺度5~8, 13~17)



尺度5 基本的な開放性 研修別(T1,T2)比較



【高】：基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直



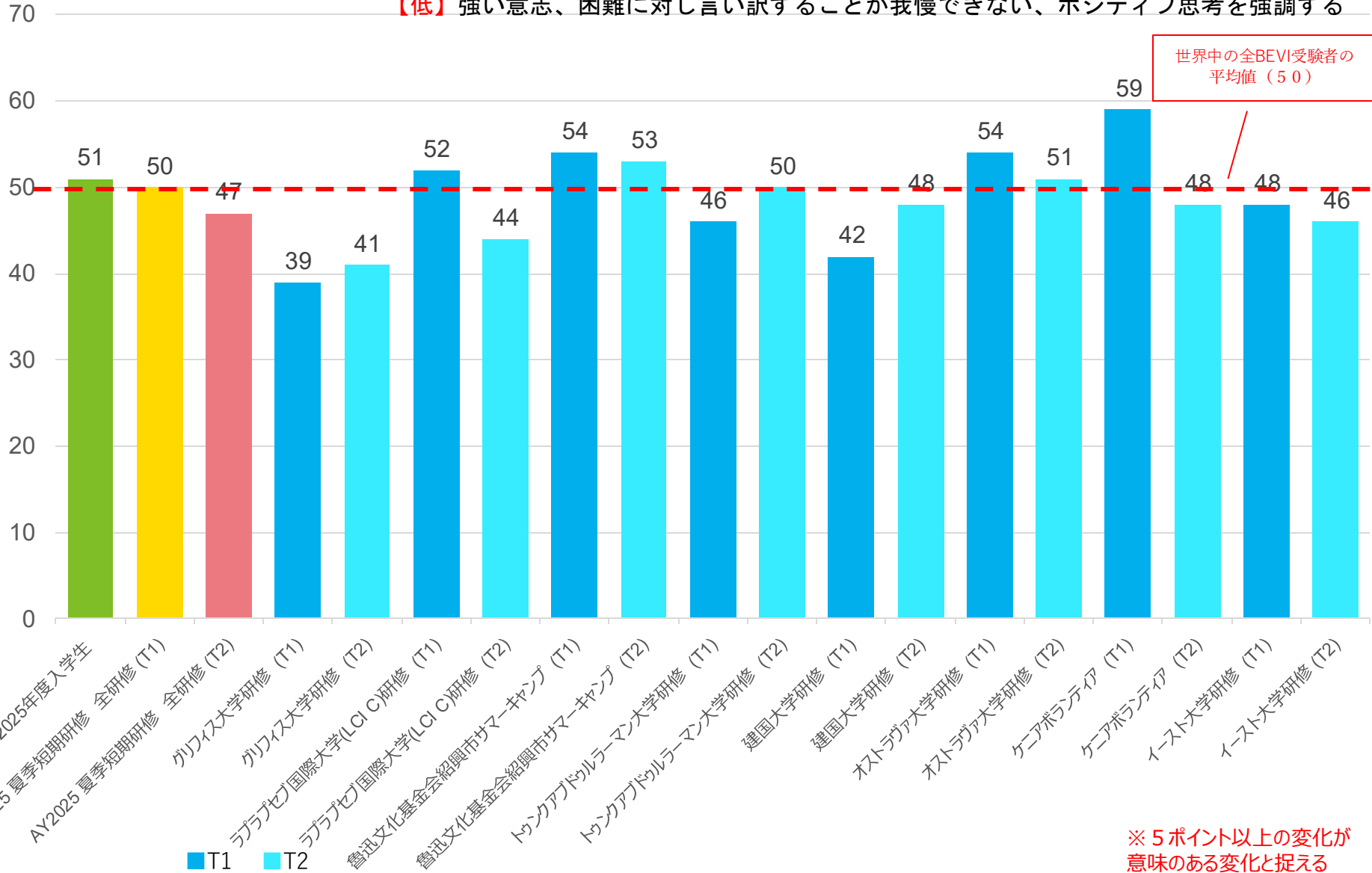
※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

尺度6 自分に対する確信

研修別(T1,T2)比較



【低】強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する



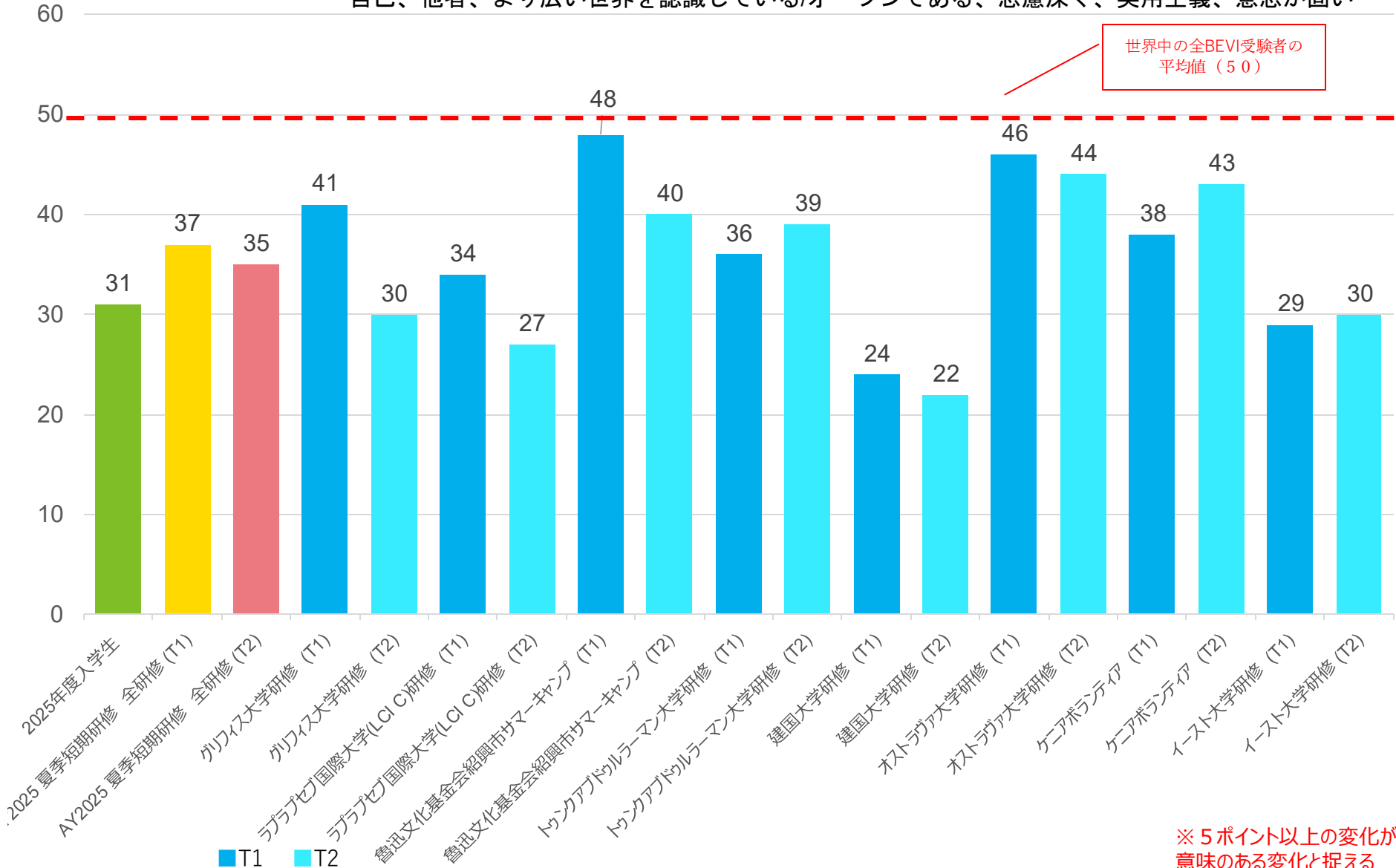
世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

尺度8 社会・情動の理解 研修別(T1,T2)比較

自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い

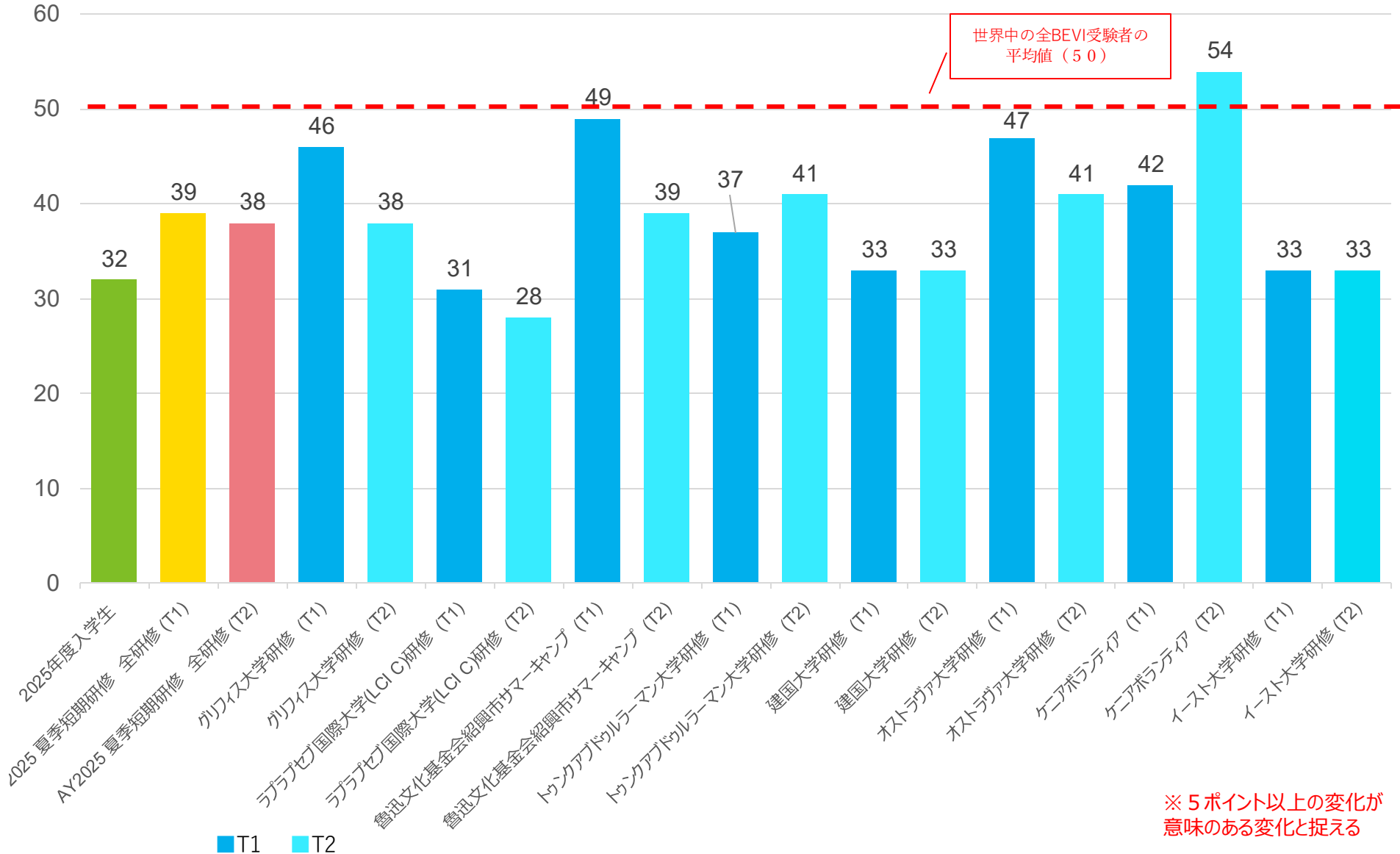
世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)



※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

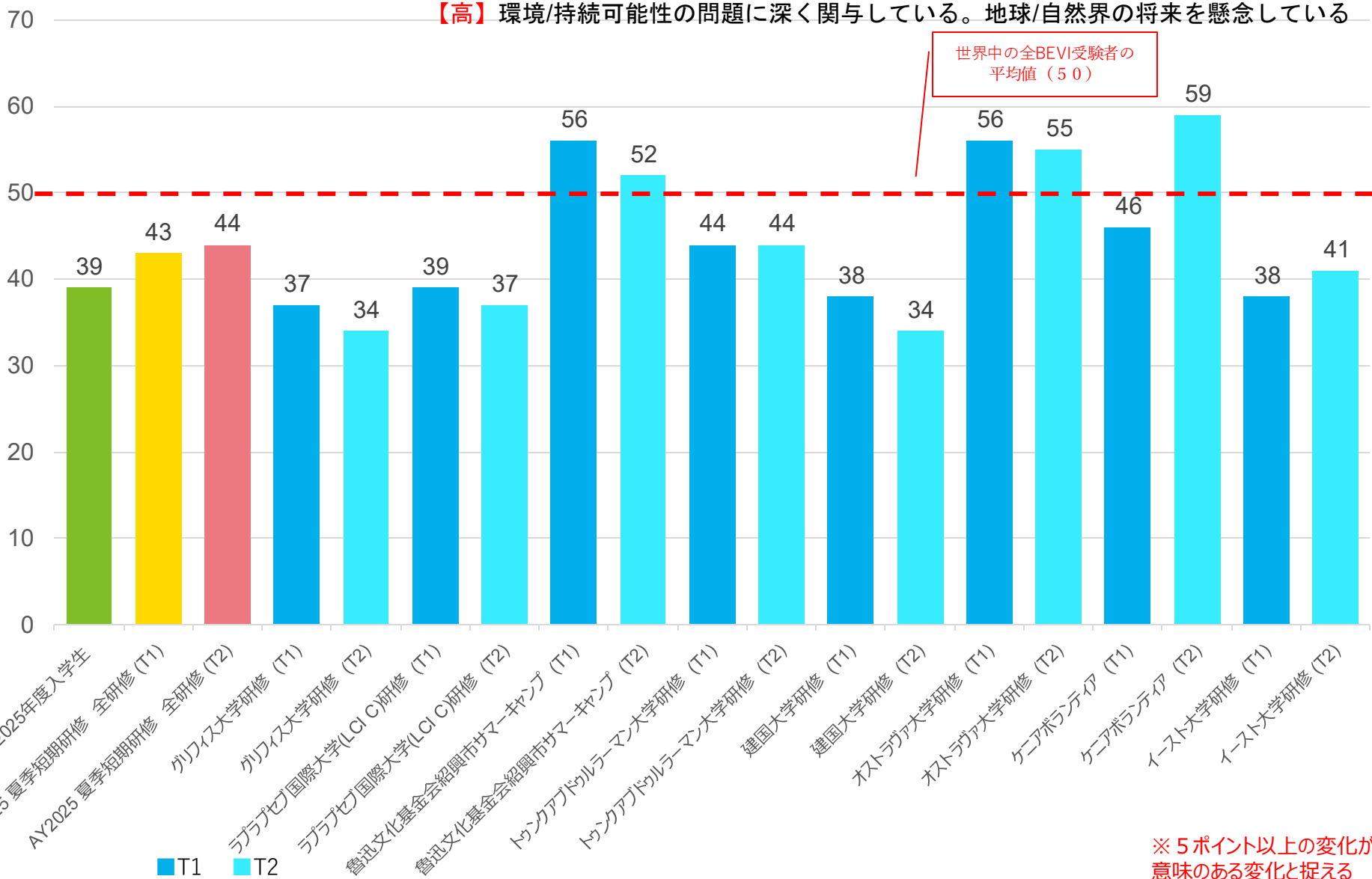
尺度15 社会文化的オープン性 研修別(T1,T2)比較

【高】：文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治における行動、政策及び実践について進歩的/オープンである



※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

尺度16 生態との共鳴 研修別(T1,T2)比較



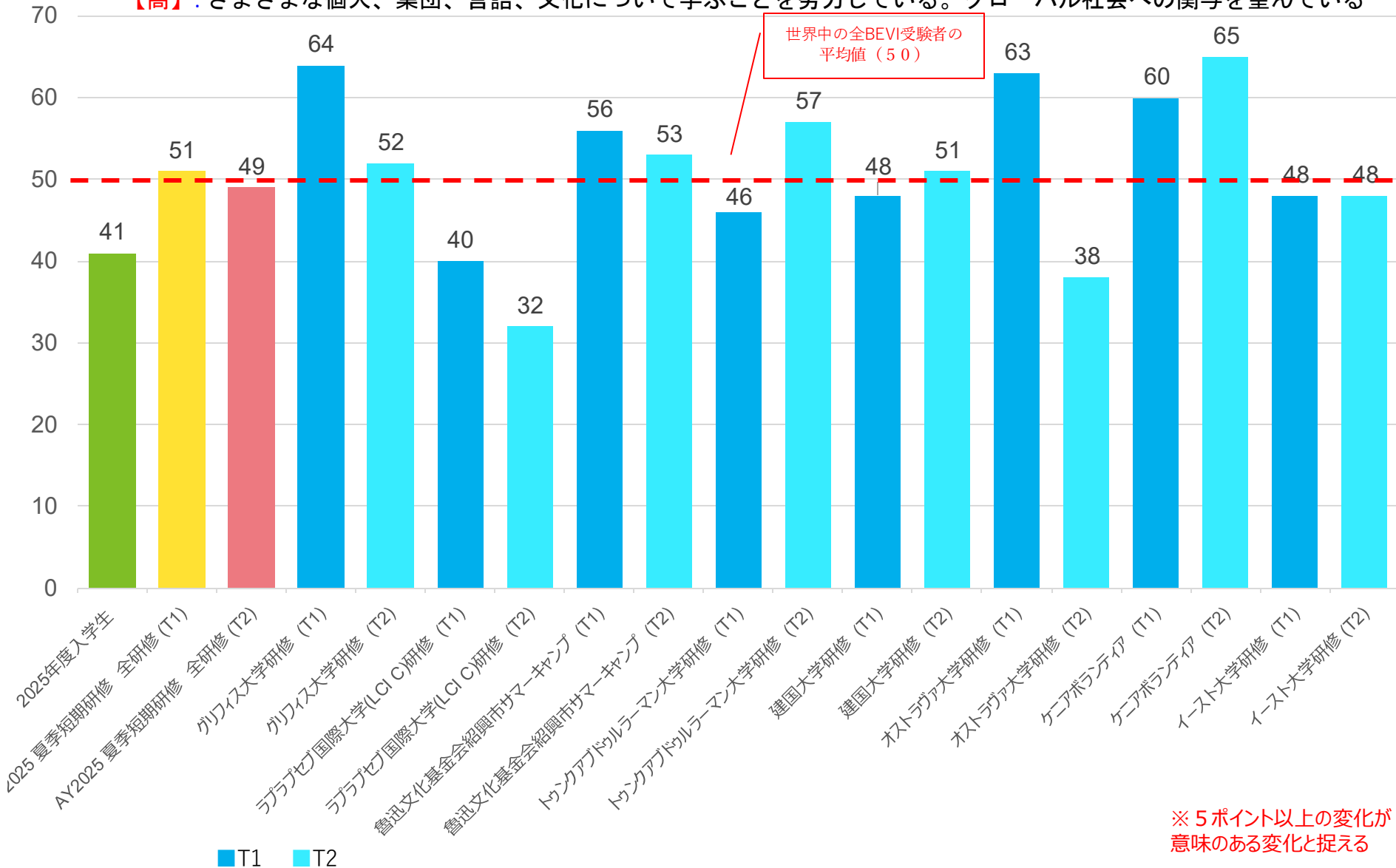
※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

尺度17 世界との共鳴

研修別(T1,T2)比較

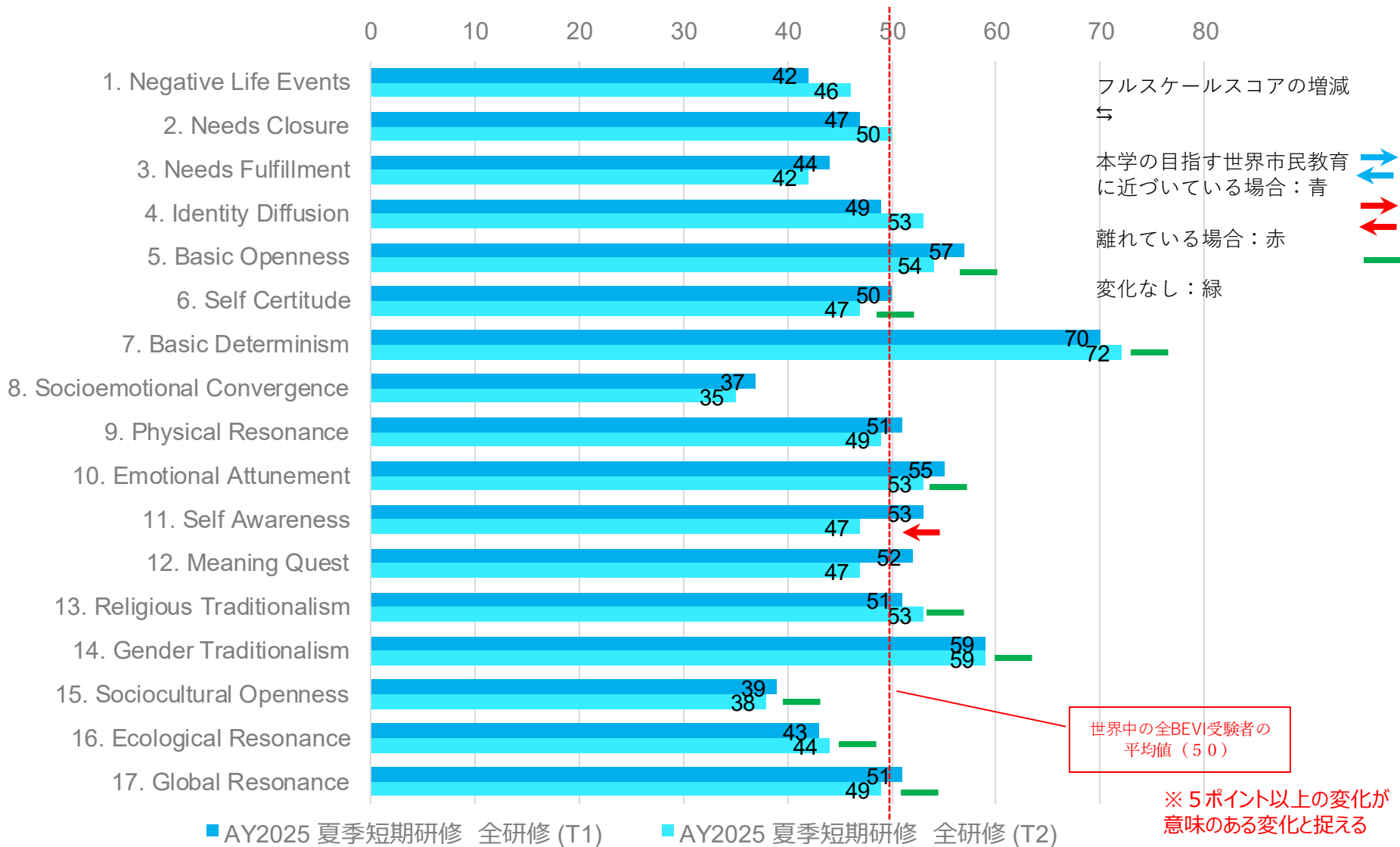


【高】：さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる



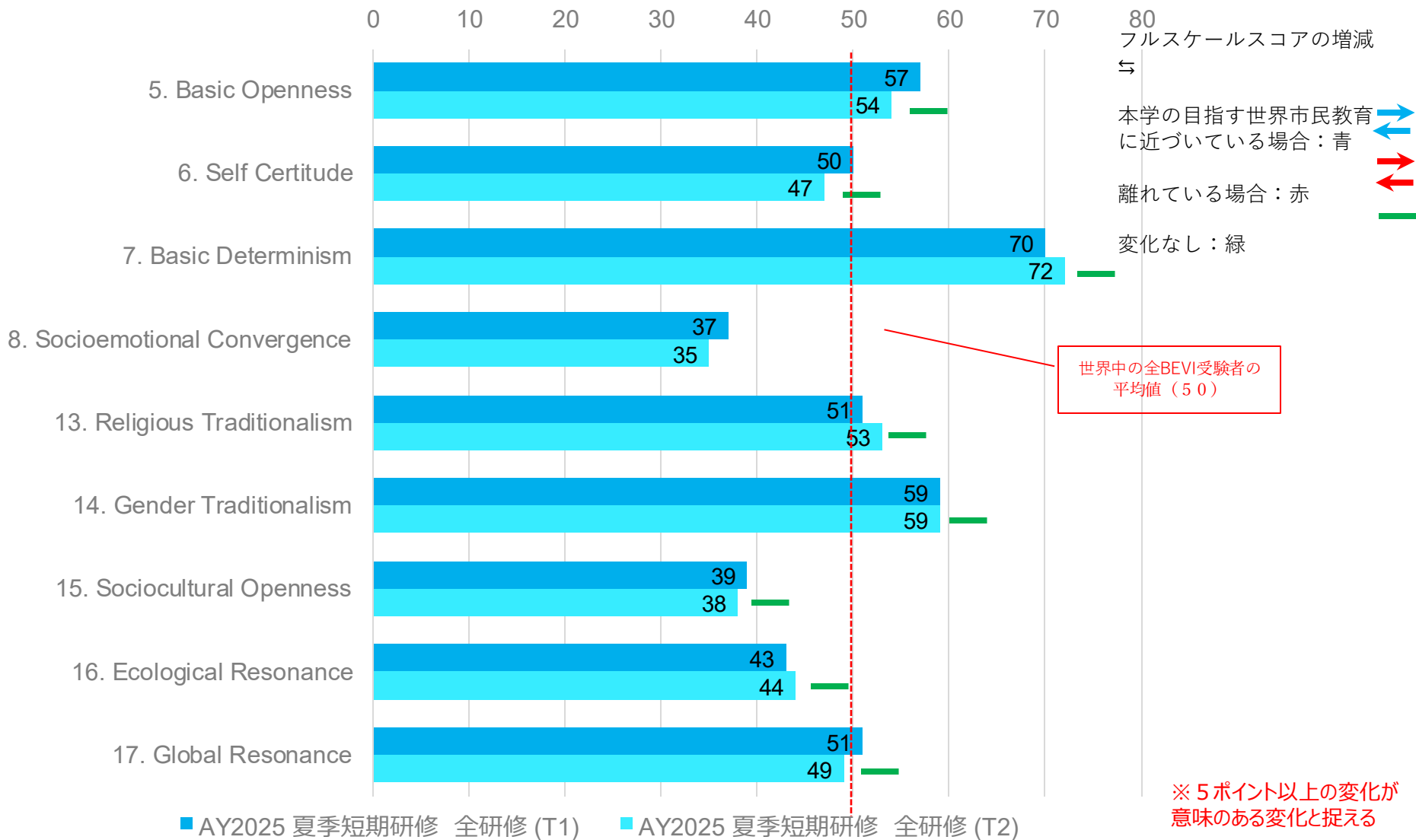
※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

AY2025 夏季海外研修の平均値 (N = 86)



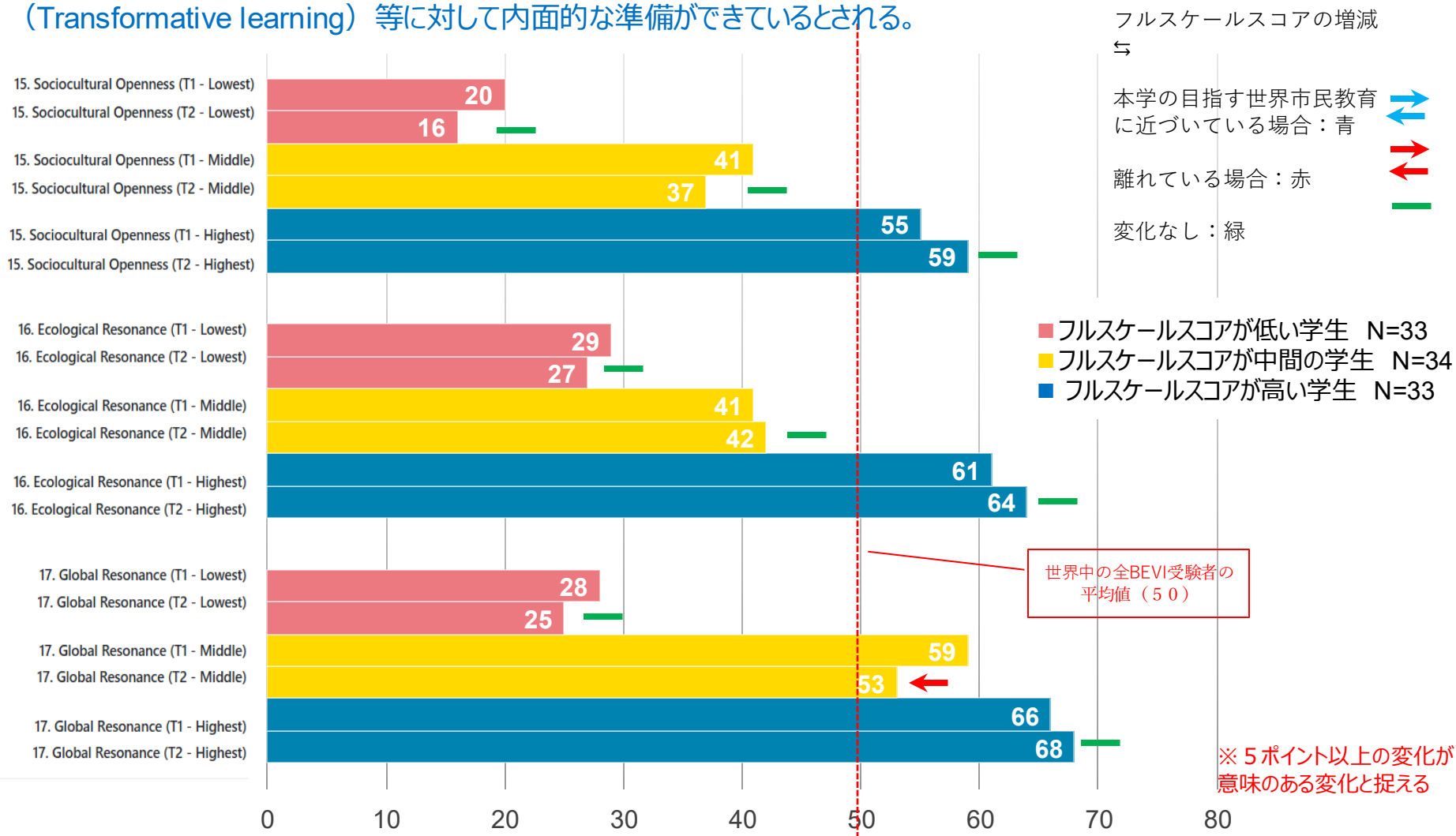
AY2025 夏季海外研修の平均値 (N = 86)

(尺度5~8, 13~17)

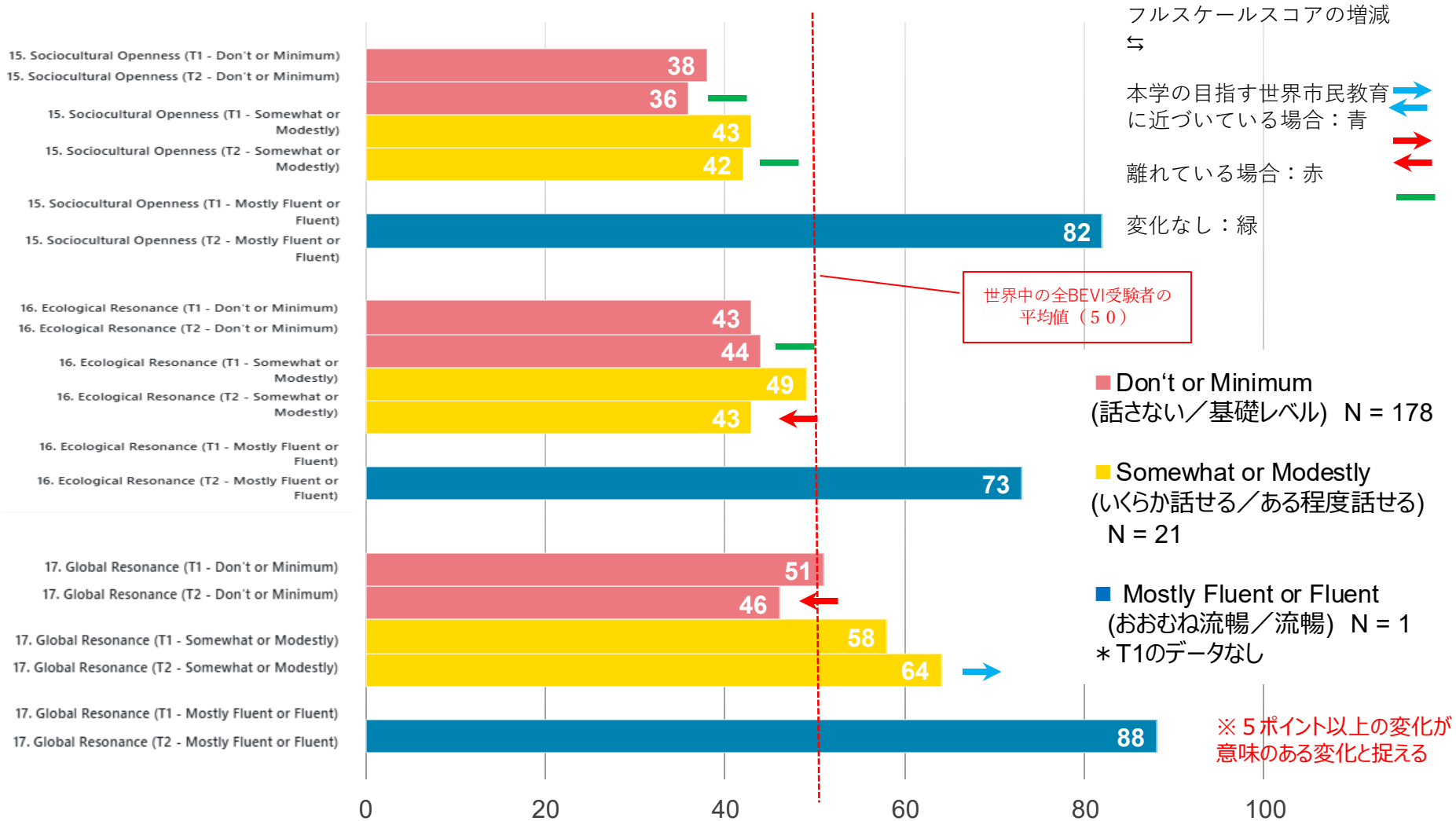


フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度

※総合的なコンピテンシーを表すスコア。スコアが高いほど、国際的・異文化・あるいは変容的学習 (Transformative learning) 等に対して内面的な準備ができているとされる。

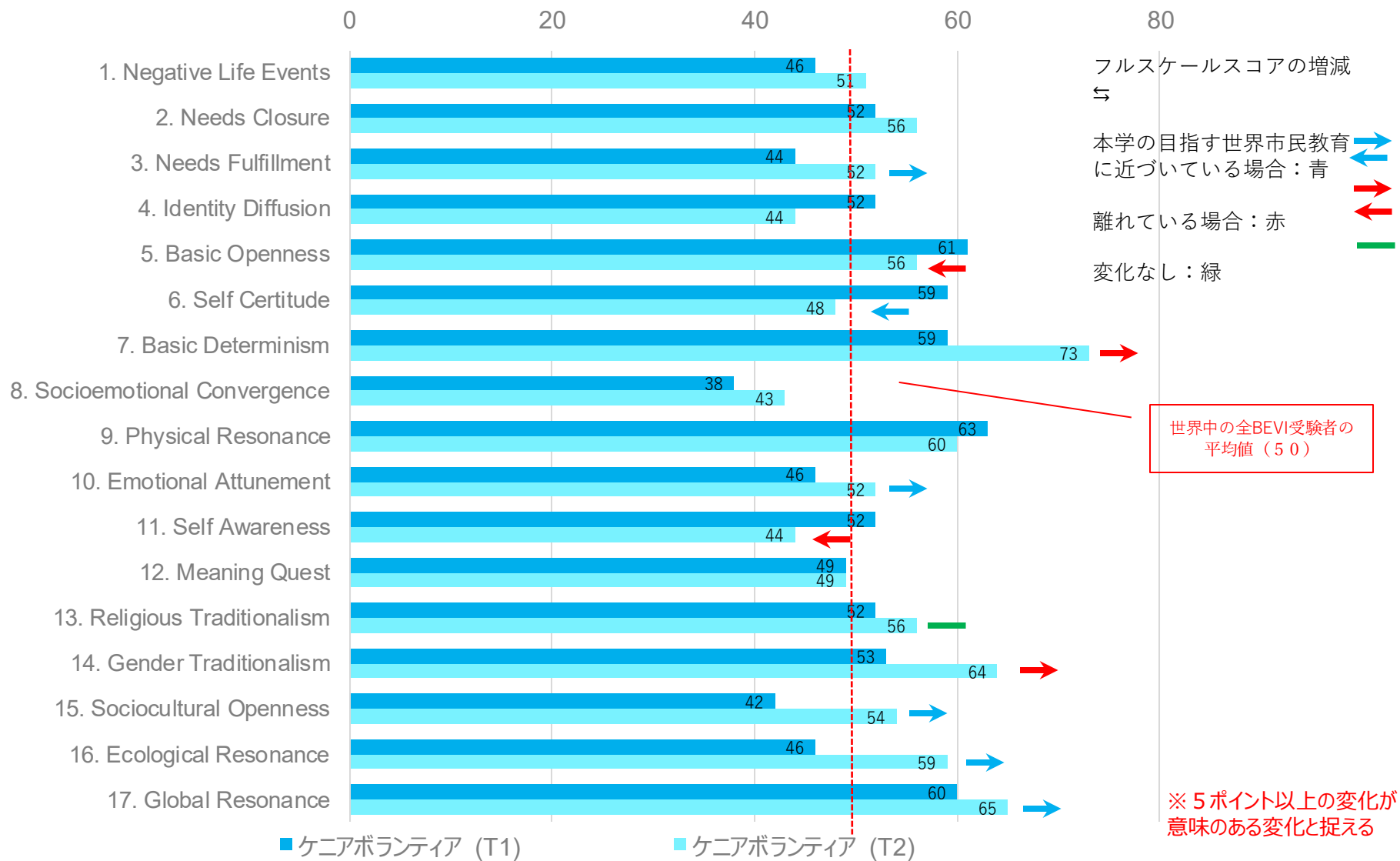


語学能力別で見る国際性に関する尺度（全体）

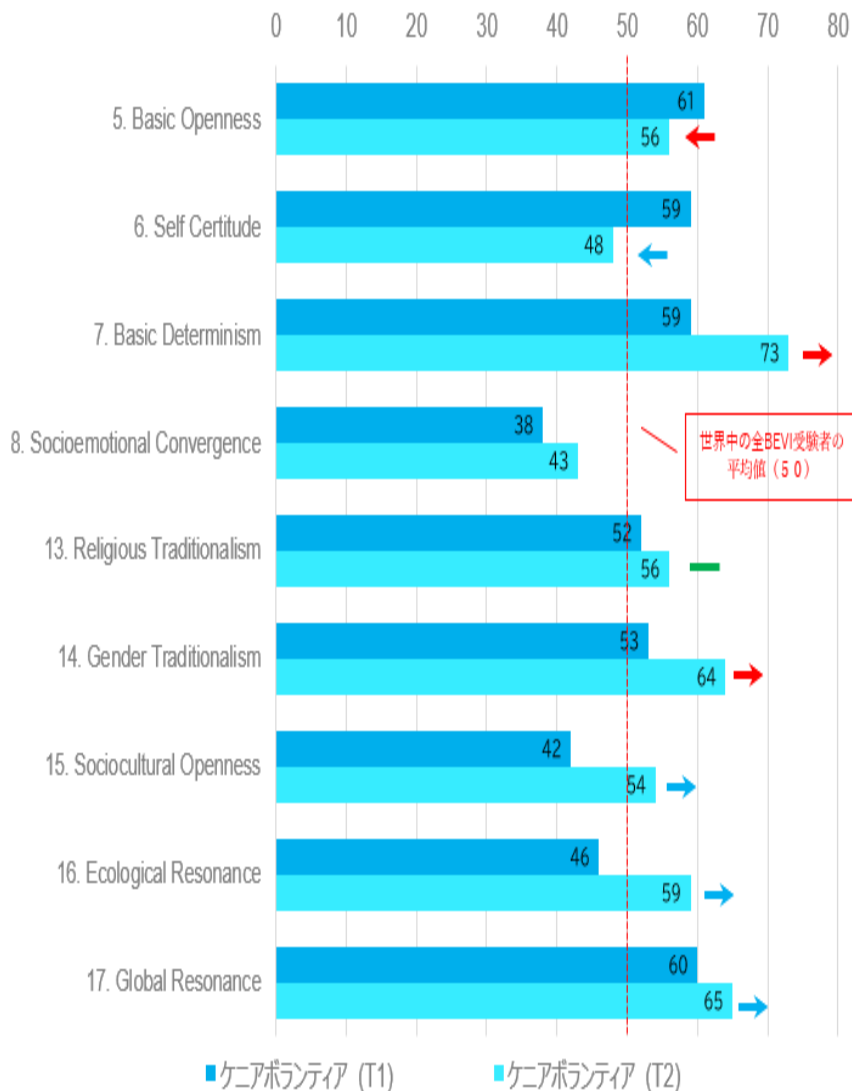


特徴的な研修のBEVI結果

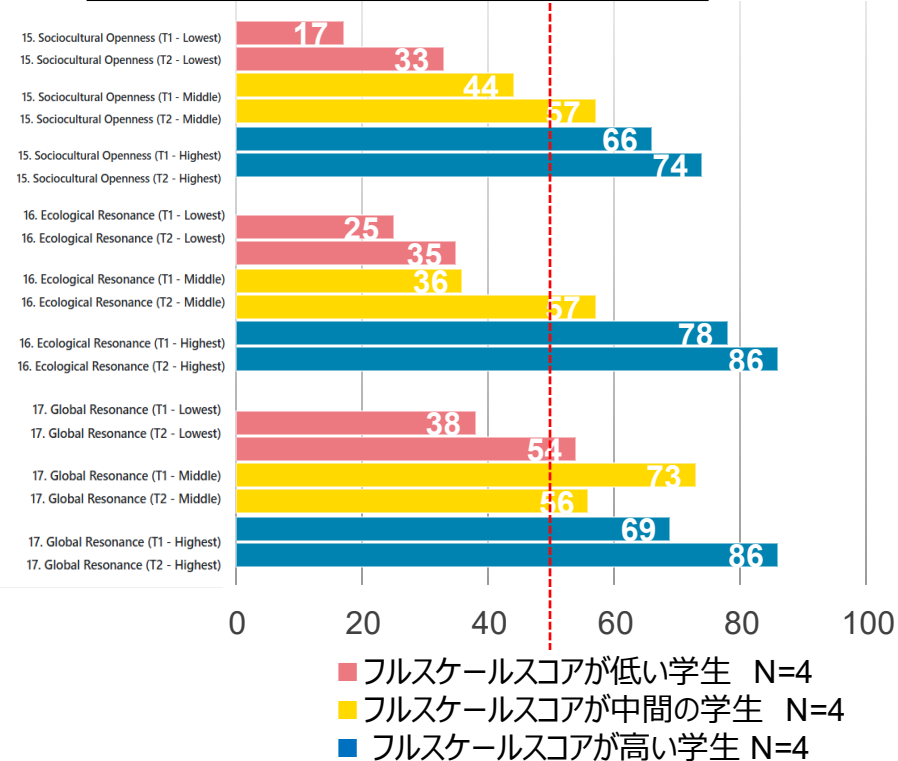
国際部 ケニア・ボランティア N=12



国際部 ケニア・ボランティア N=12 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



尺度15~17については研修前後で数値が増加しており、肯定的な変化が見られた。一方、尺度7(決定論・必然論的性向)では、他の研修では確認されなかった大きな変化が見られた。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

記述式回答 (国際部 ケニア・ボランティア N=12)



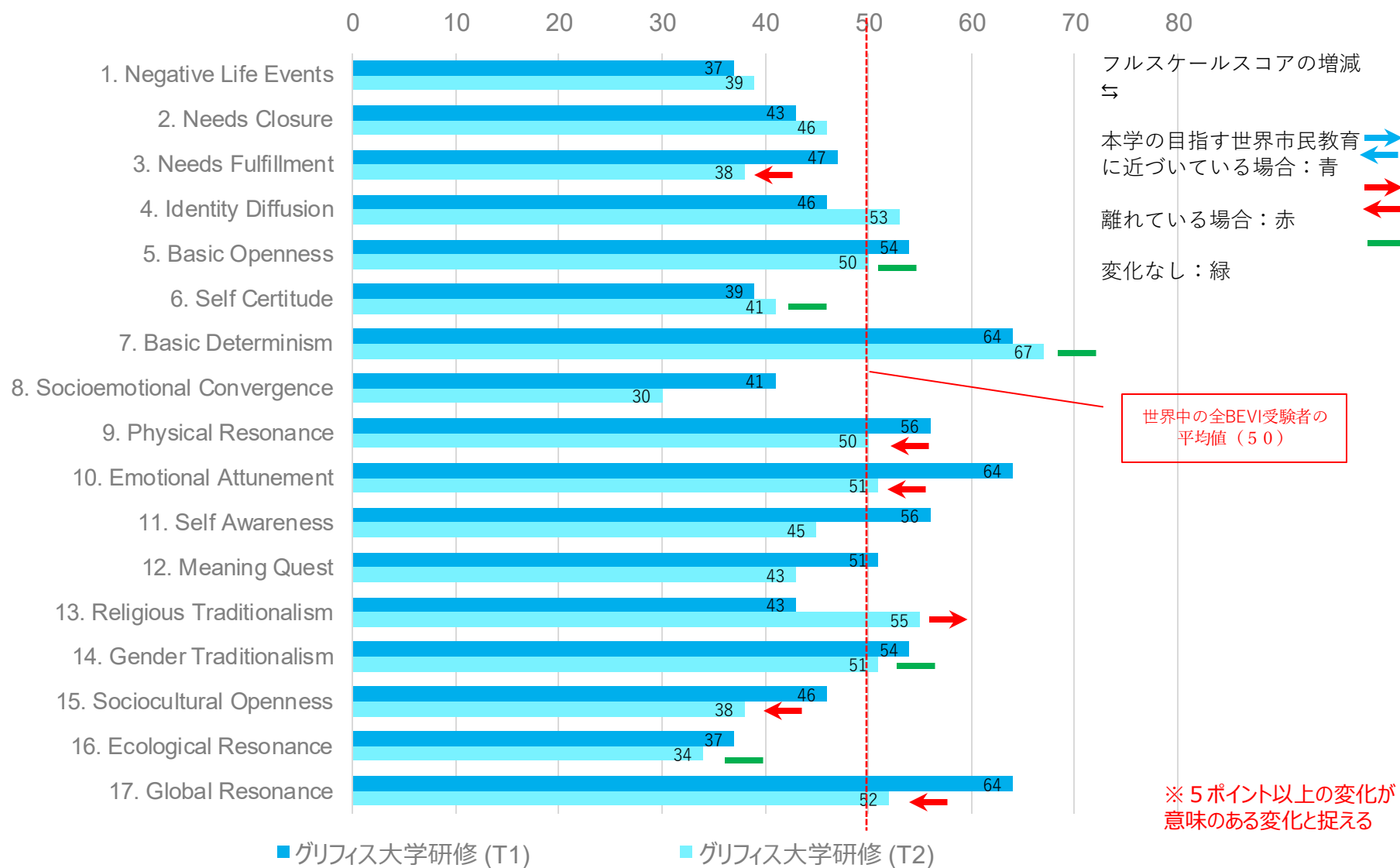
Q1 どのような出来事また状況が、あなたに最も影響を与えたでしょうか。またそれはなぜですか。

- 言葉や文化の違いを越えて一緒に歌ったり遊んだりするなかで、「人と人は気持ちでつながることができる」という実感を強く得た。子どもたちは決して恵まれた環境にいるわけではないが、互いに助け合い、笑顔で日々を過ごしていた。その姿は、物質的な豊かさがある日本にいても忘れがちな「人と人とのつながりの大切さ」を教えてくれた。また、自分の小さな行動や思いやりでも、目の前の子どもにとっては大きな意味を持つことを実感した。一緒に遊んだり、絵を描いたりするだけで子どもたちの表情が輝くのを見て、「自分の存在が誰かの喜びにつながる」という新しい気づきを得た。
- 限られてる生活の中で共同作業しながら助け合っている姿を見て自分は恵まれているのにないものねだりをし続けていたんだなと恥ずかしく思った。

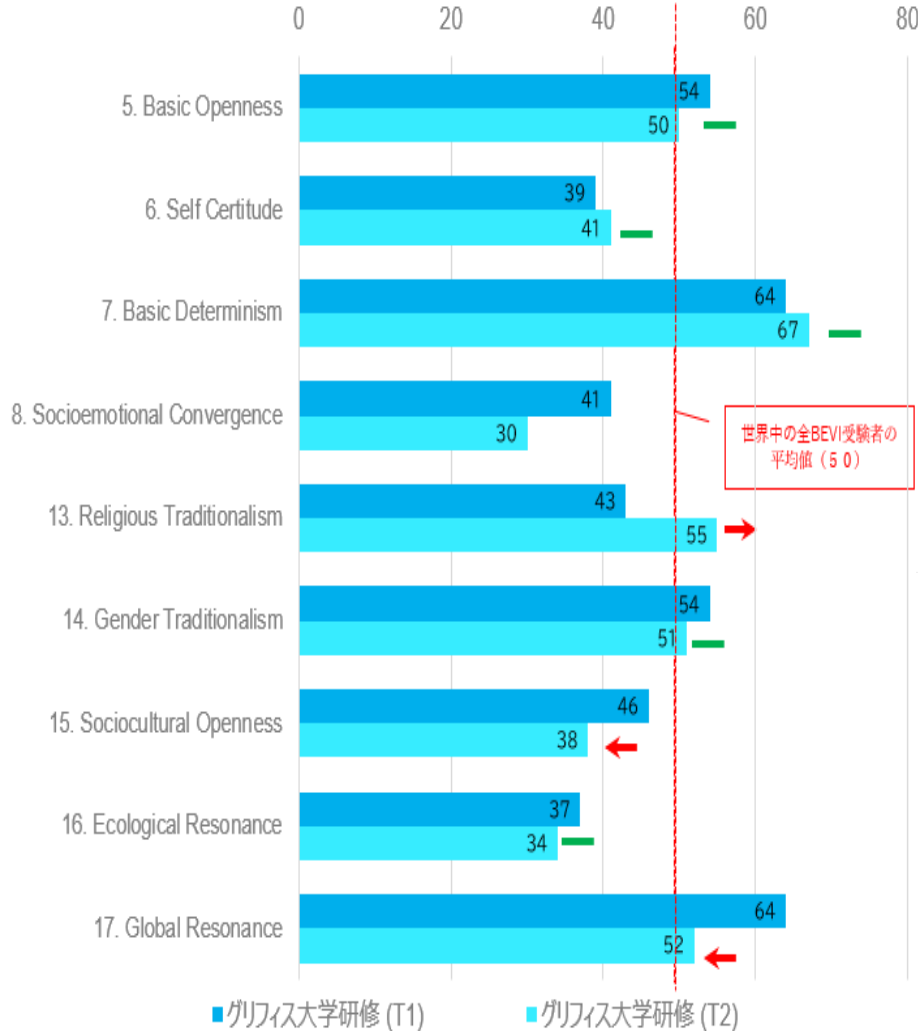
Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

- このプログラムを通じて「人間らしく生きるとは何か」という問いに対する答えを学んだ。それは、知識や肩書きの前に、人と心で向き合い、他者の幸せを願える自分であること。また、自分がまだ現地の社会背景や課題を十分に理解できなかったことを反省点として受け止め、知識や行動を継続的に積み重ねる必要性も学んだ。今後は、この経験を糧に「子どもたちに誇れる自分」であり続けることを目標にし、教育や国際協力の道を歩んでいきたい。

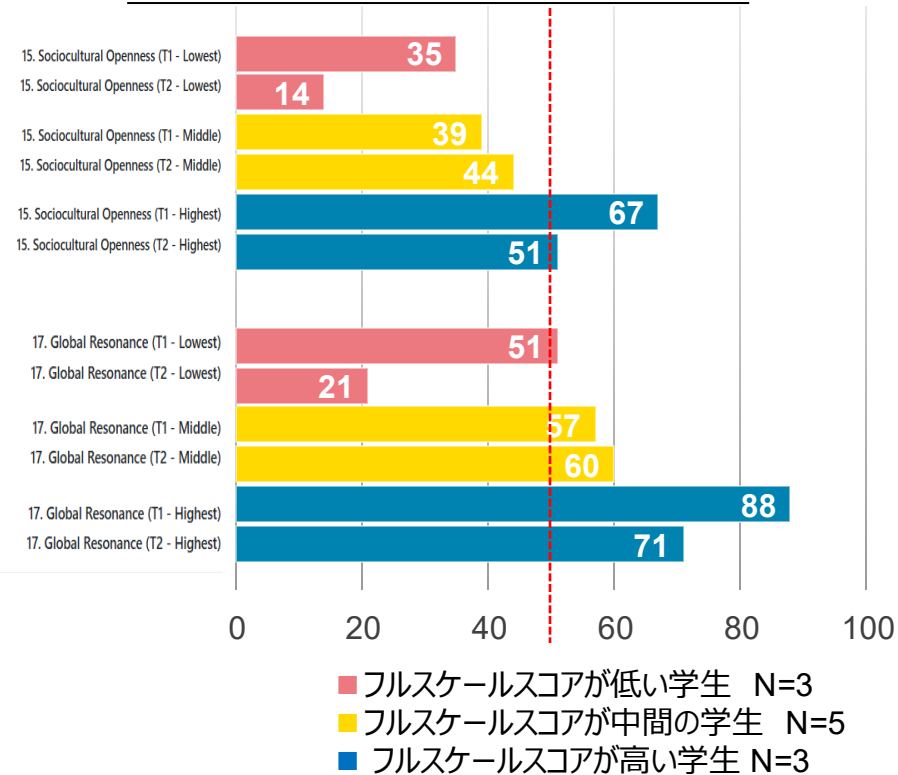
国際部 グリフィス大学研修 N=11



フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)



多くの尺度において、本学の目指す世界市民教育からやや離れる傾向が確認された。尺度15および17でも研修前後で数値が減少しており、マイナスの変化が見られた。特に、フルスケールスコアが低い学生層において、その変化が大きく表れている。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える



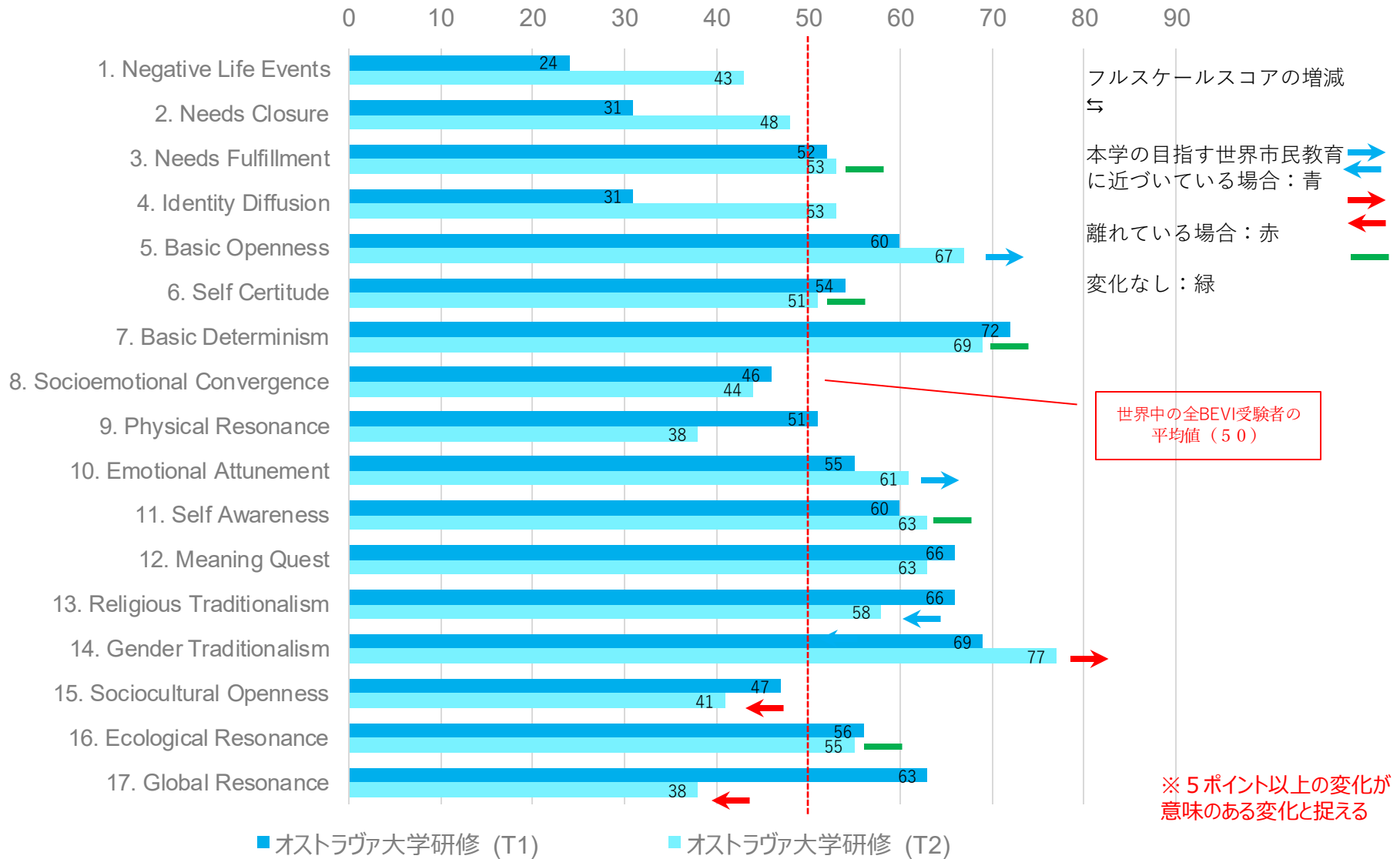
Q2 このような出来事または状況は、あなた自身の「自己」や「アイデンティティ」を、自分自身または他者との関係で、より明確にすることができたでしょうか。また、なぜそのようにことがおこったのですか。

- 明確にすることはできなかった 理由：約2週間では、オーストラリアと日本の深い違いを見つけることが出来なかった。
- できたと思う。それぞれの国の文化を知ることができて新しい価値観を知ることができたとともに、自分がどのような文化の中で成長してきたかを改めて考えることができたから。
- 日本とは違う国の文化を体感し、多様性を受け入れることで自分の何かが変わった気がした。
- 人それぞれできることとできないことがあり、それを理解し尊重して支え合うことが大切であるという認識を明確にすることができた。理由は自分とは異なる背景を持つ様々な人と関わったからである。

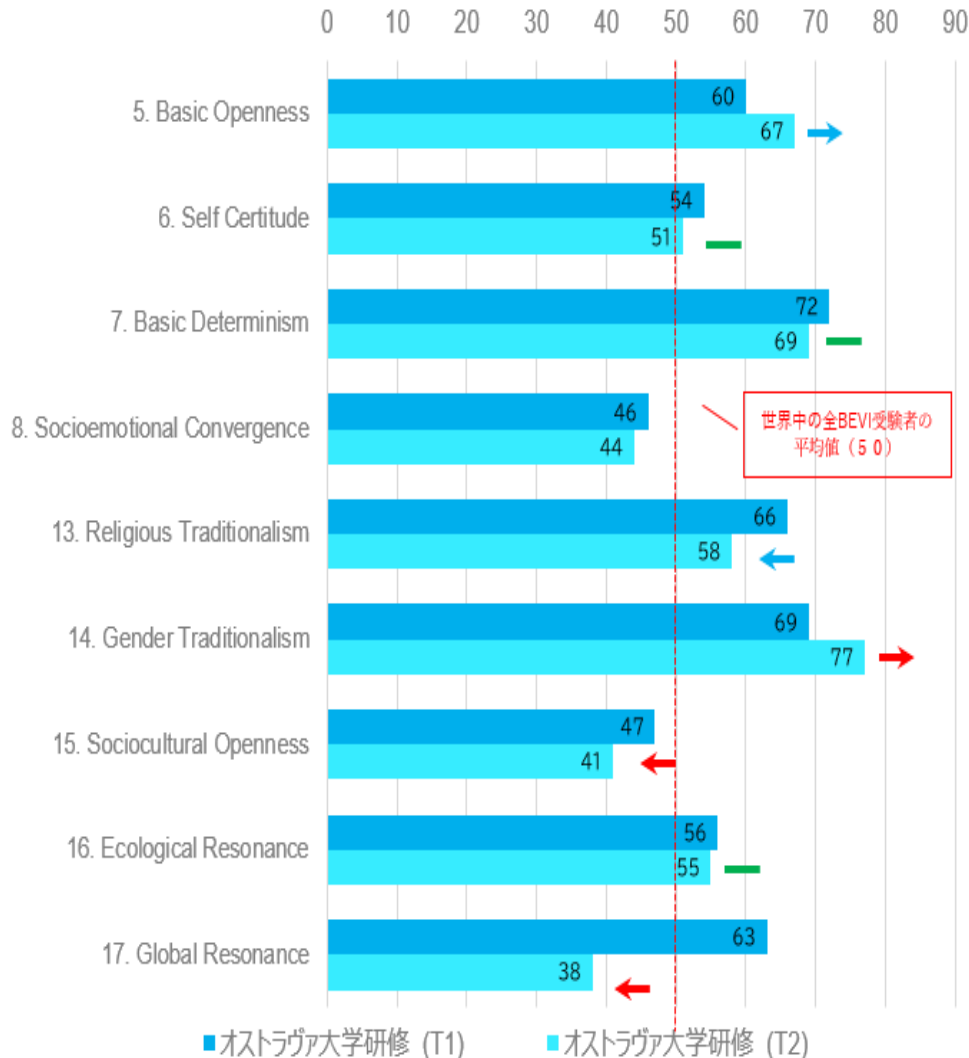
Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

- 日本とは異なる現地人の文化を学ぶとともに、チームの一員として先を見て考え、思いついたらすぐに行動に移す勇気を学べる。
- 異文化理解について少しでも進歩することができると思う。英語力の上昇と英語での会話コミュニケーション能力の上昇が見込める。
- 日本には無い価値観、街並み、決まりを知り、まだまだ世界には沢山の考え方があるんだなと感じることが出来た。今後、その多角的な視点を大切に、人との関わりを増やし、他者を尊重すること意識していきたいと思った。

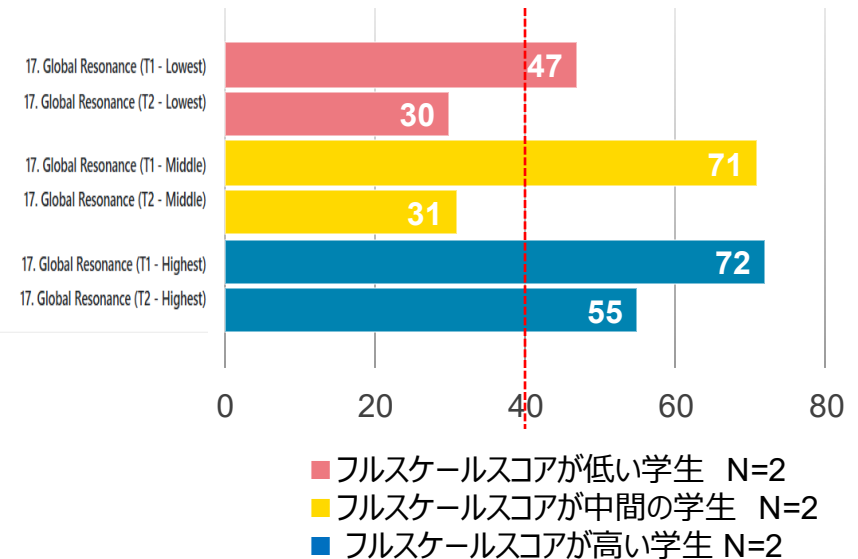
国際部 オストラヴァ大学研修 N=6



国際部 オストラヴァ大学研修 N=6 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



尺度17については研修前後で数値が大幅に減少している。フルスケールスコア別で見ると、特に中間の学生において変化が大きい。記述回答の中にはネガティブな意見は見られなかったものの、研修を通じて学生の考え方や意識に変化が生じた可能性が示唆される。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える



Q2 このような出来事または状況は、あなた自身の「自己」や「アイデンティティ」を、自分自身または他者との関係で、より明確にすることができたでしょうか。また、なぜそのようにことがおこったのですか。

- 世界への考えと自分自身の考えが想像以上に違うことがわかった。
- 文化や価値観が異なる中で、人間としての相違点をすごく見極めることができた。

Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

- オストラヴァ大学研修を通して、後半の授業がメモを頼りにプレゼンテーション発表を英語ですることによって将来のためにも良い機会となった。
- 世界は広いということ。まだまだ自分の知らない世界や人々が何十億人いて、いかに自分が小さいかを知ることができた。
- 今回の留学で、研究しているときに海外へ学会に行く際に必要な英語力だけでなく社会人で海外へ働く際に必要な英語力を学びたい。

各プログラムのBEVI結果



【国際部 グリフィス大学研修】 のBEVIによる分析

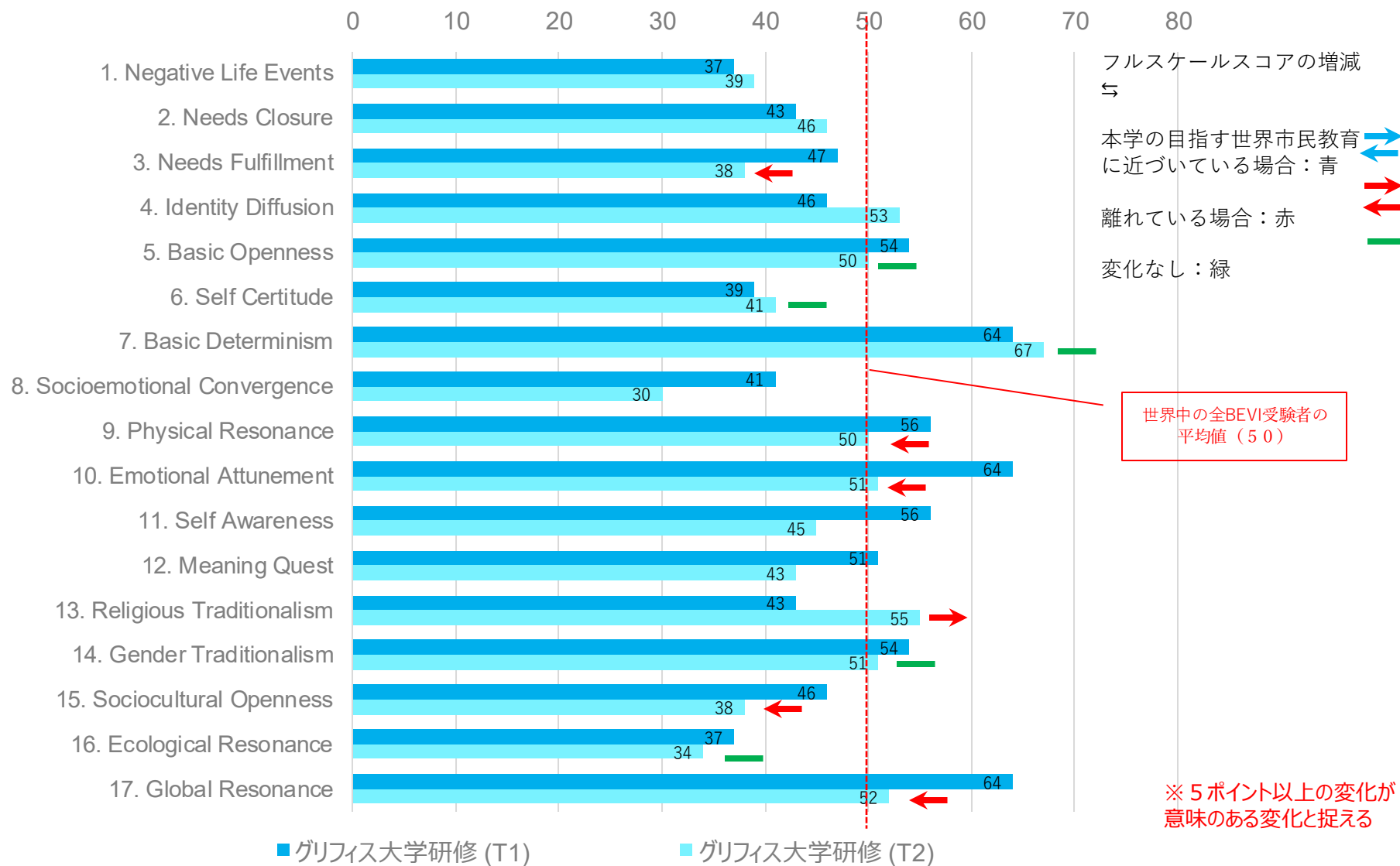
期間： 2025年7月30日～8月16日

参加者： 15名

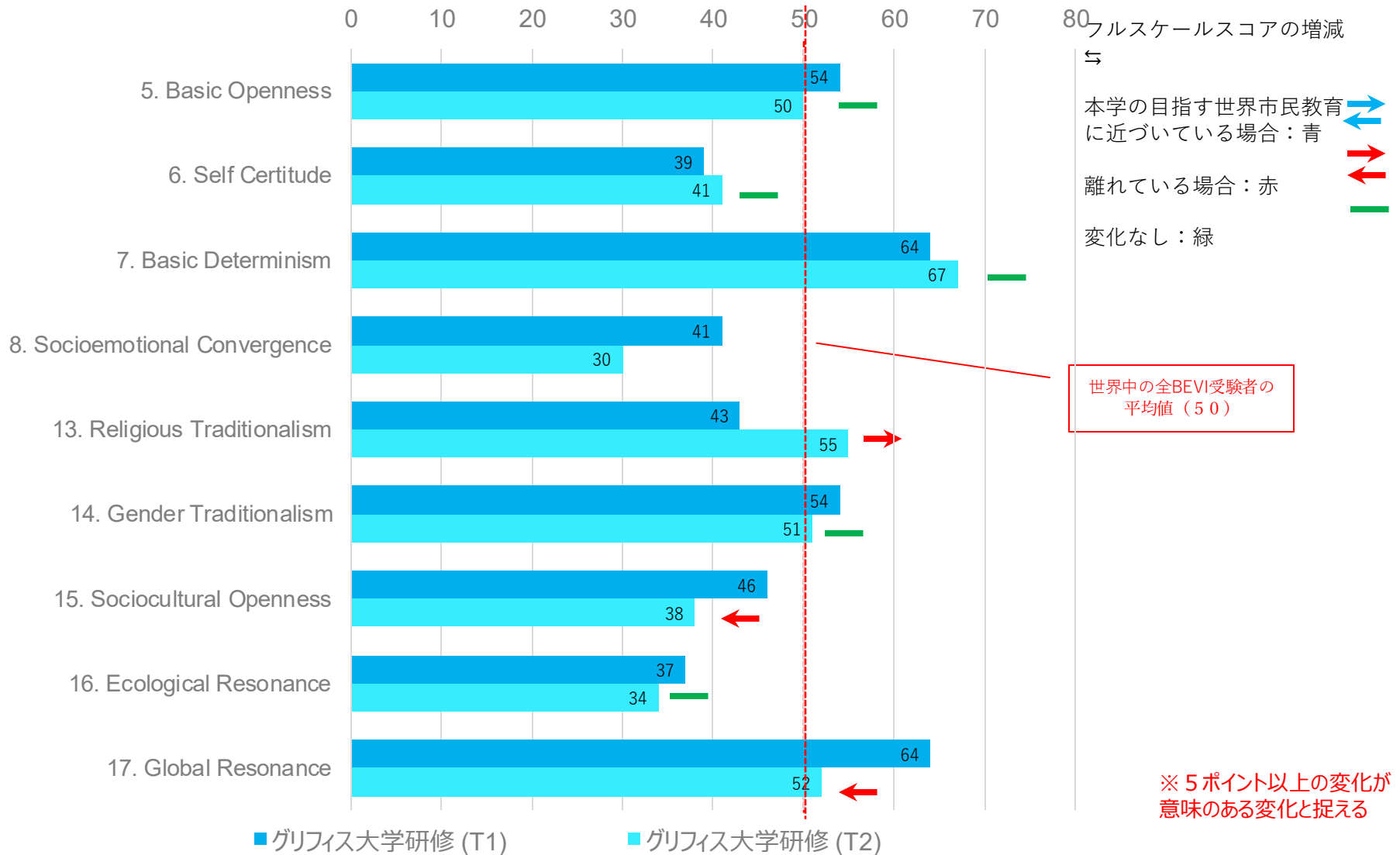
研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 グリフィス大学研修 N=11



国際部 グリフィス大学研修 N=11 (尺度5~8, 13~17)





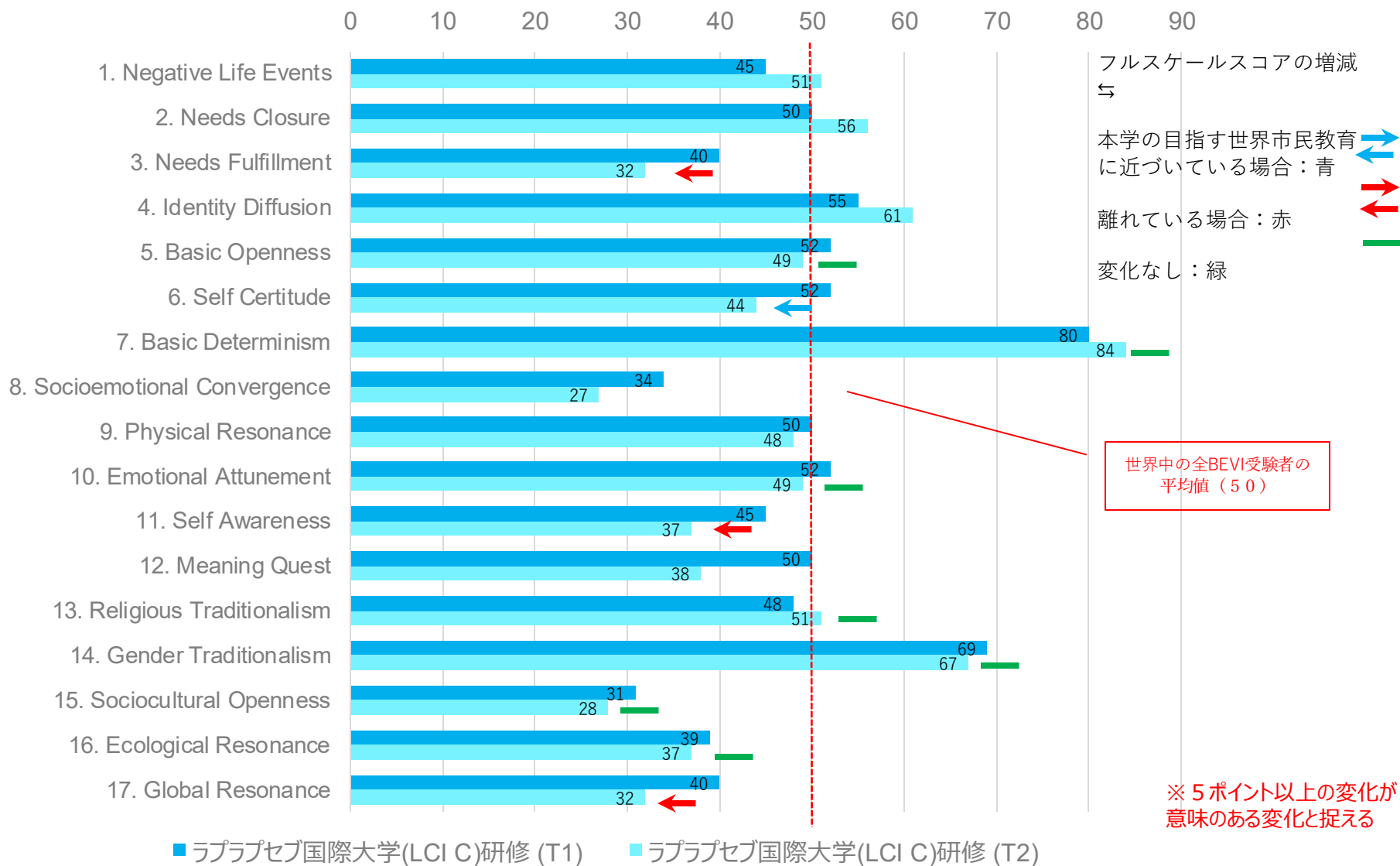
【国際部 ラブラブセブ国際大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2025年8月3日～8月31日

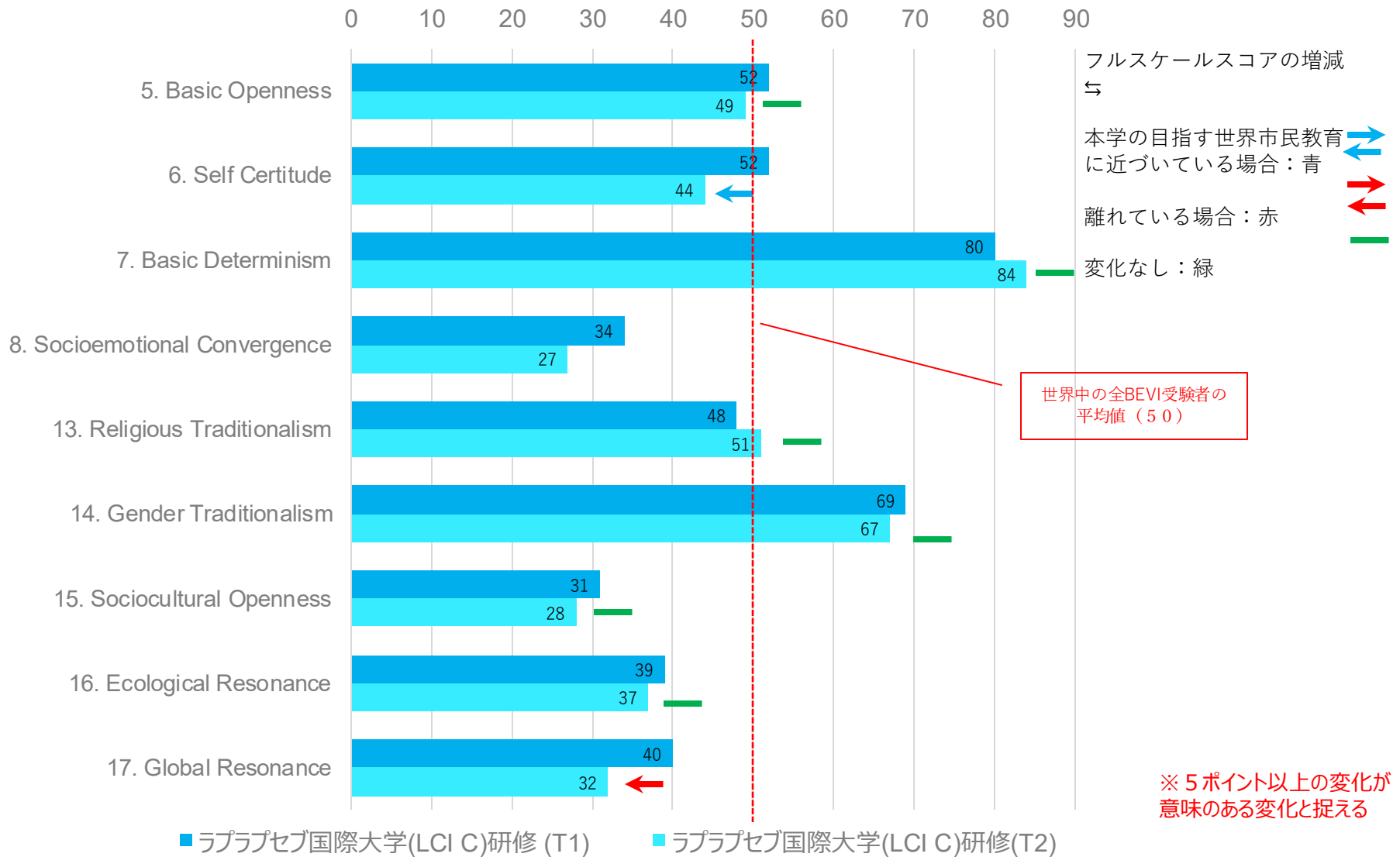
参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する



国際部 ラプラプセブ国際大学研修 N=19(尺度5~8, 13~17)





【国際部 魯迅文化基金会紹興市 サマーキャンプ】 のBEVIによる分析

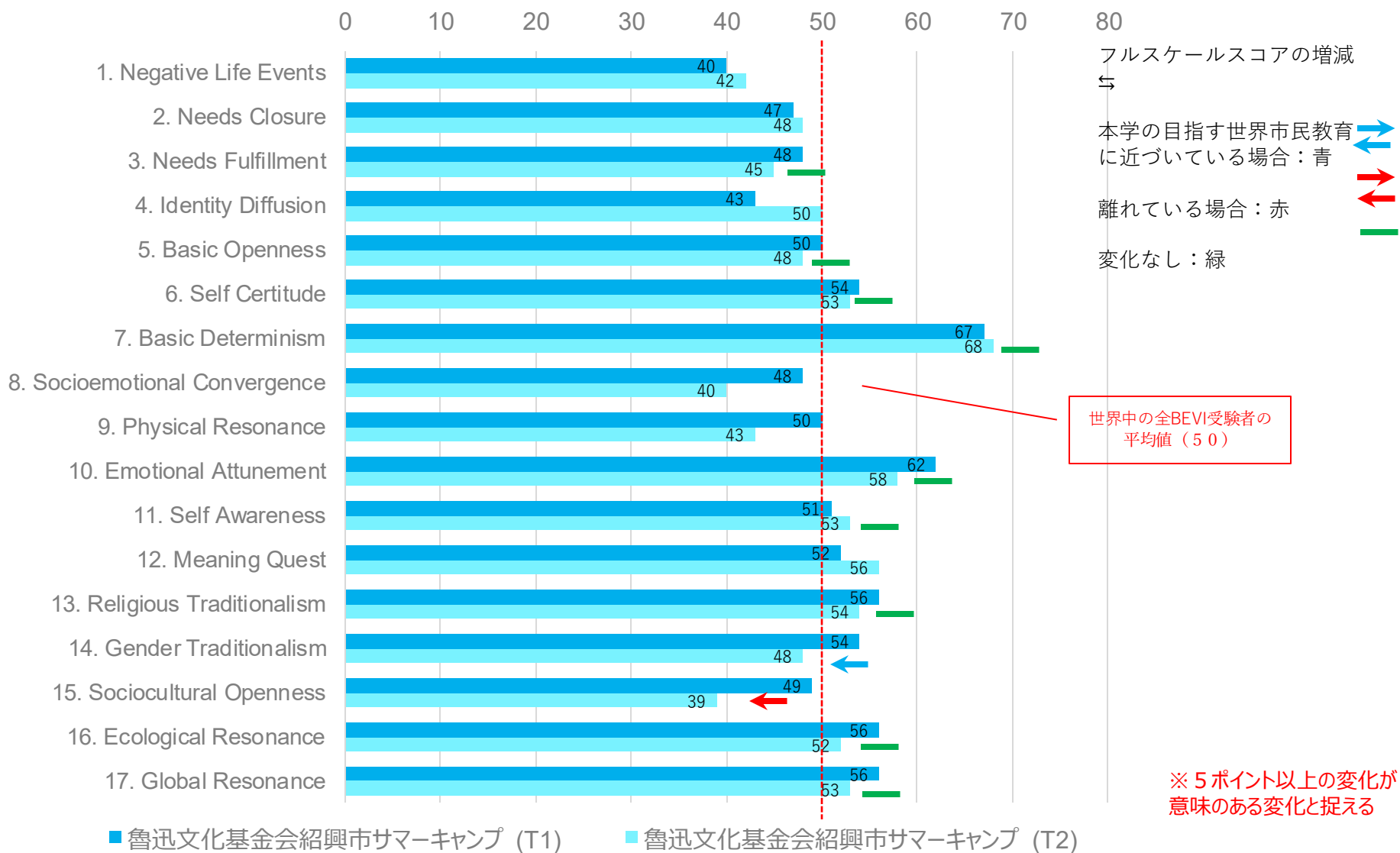
期間： 2025年8月3日～8月9日

参加者： 18名

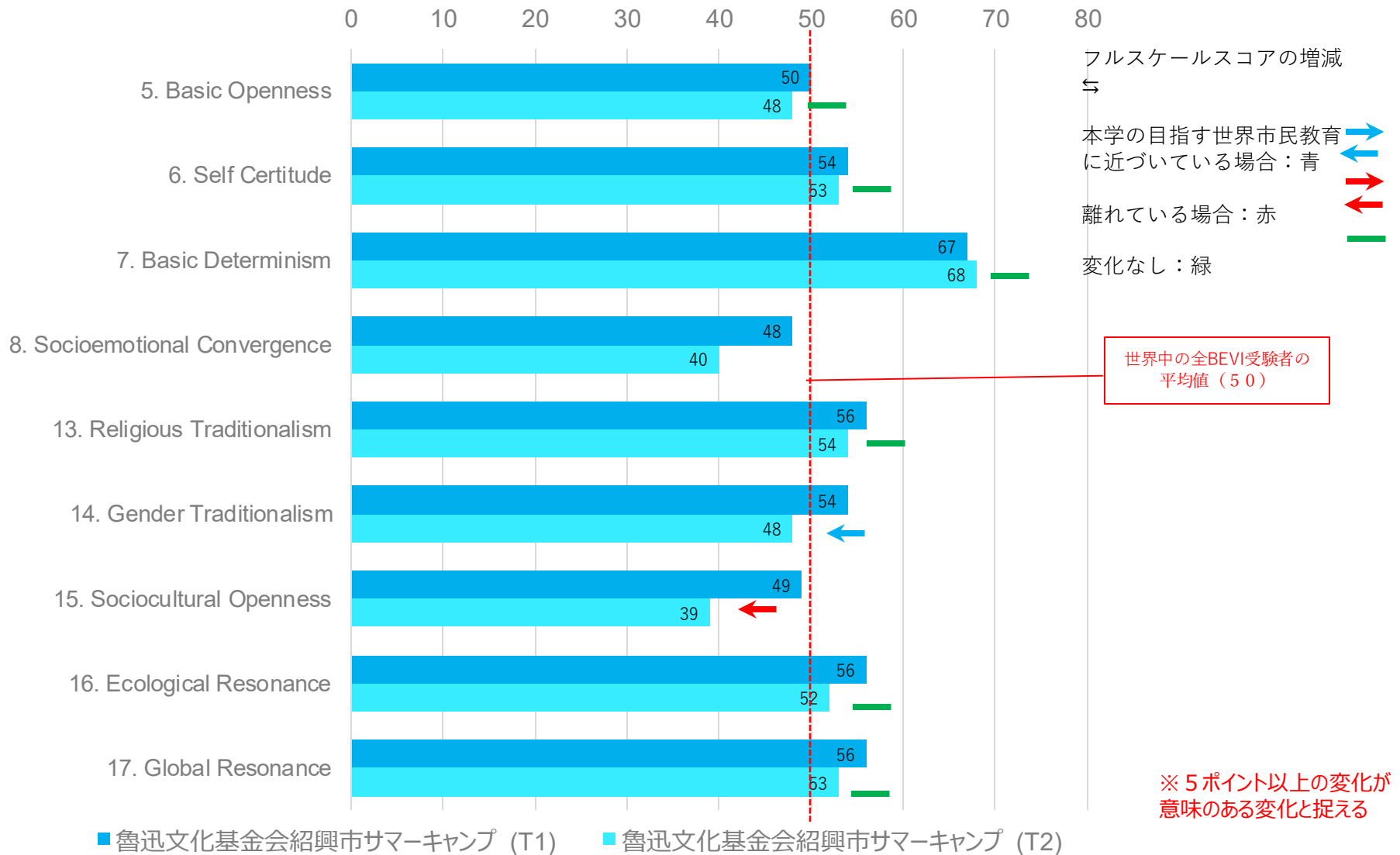
研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 魯迅文化基金会紹興市サマーキャンプ° N=13



国際部 魯迅文化基金会紹興市サマーキャンプ N=13 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 トウクアブドウルラーマン 大学研修】 のBEVIによる分析

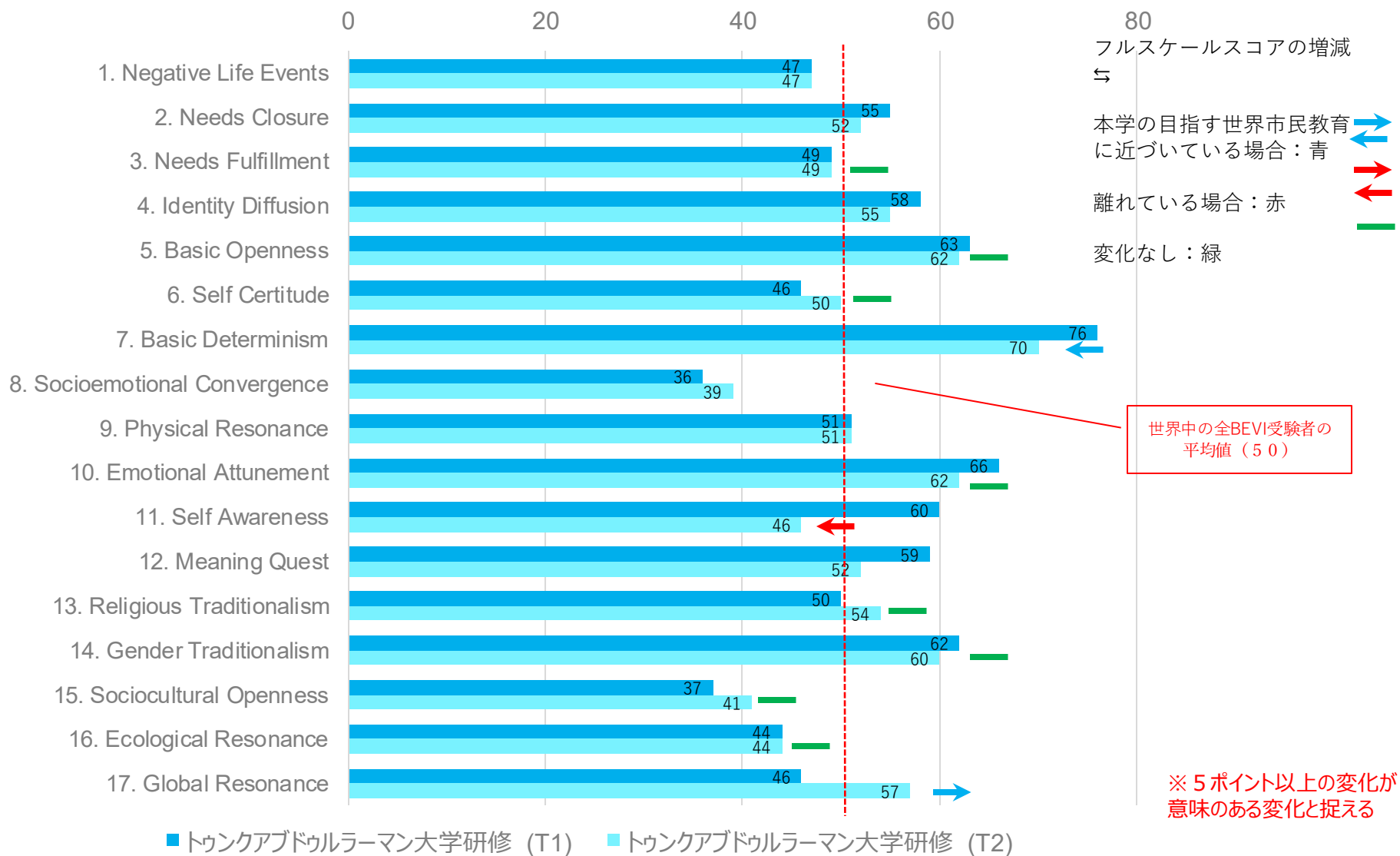
期間： 2025年8月4日～8月16日

参加者： 17名

研修目的： 語学・文化研修

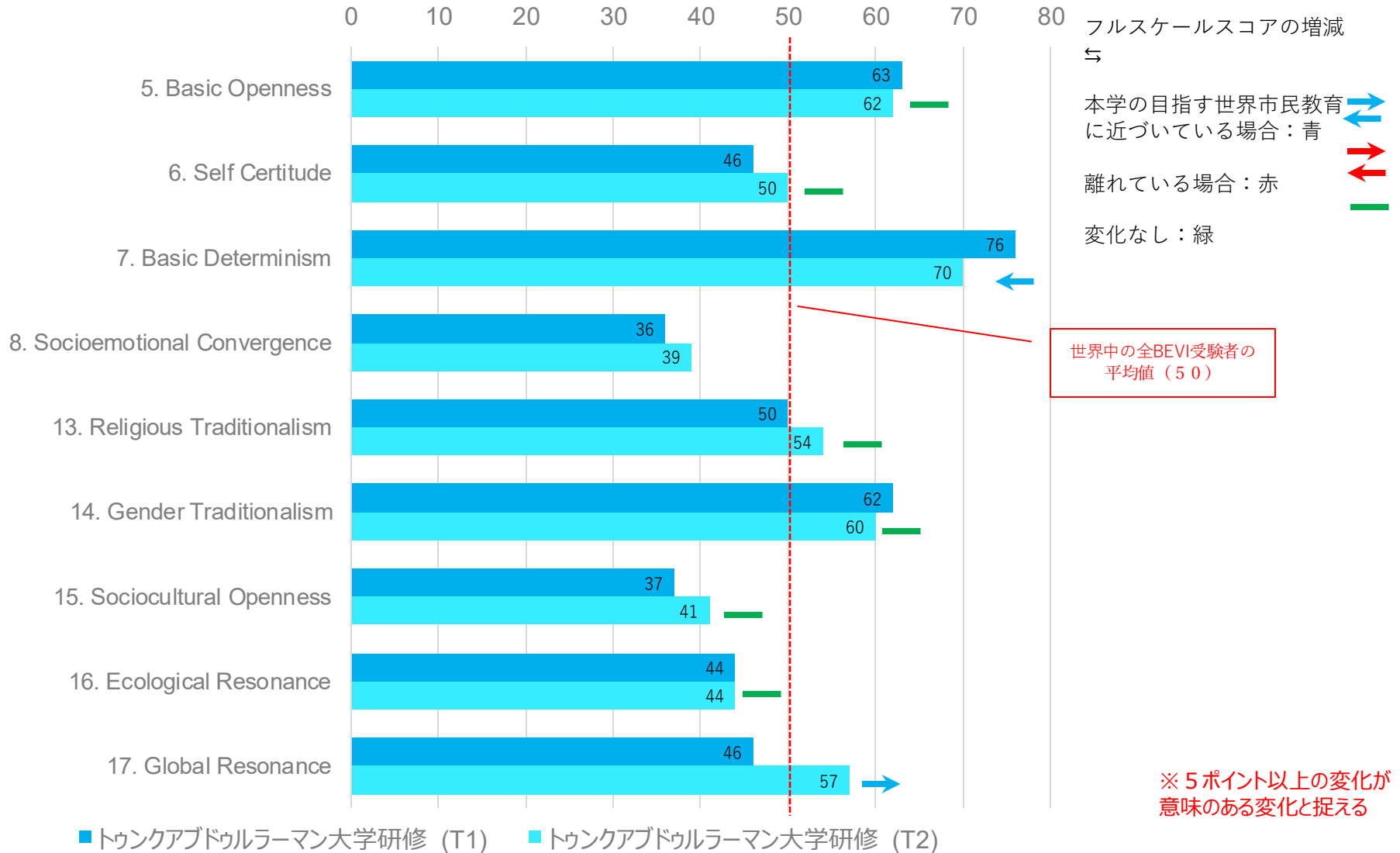
研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 トungkアブドゥルラーマン大学研修 N=15



国際部 トウンクアブドゥルラーマン大学研修 (尺度5~8, 13~17)

N=15





【国際部 建国大学研修】 のBEVIによる分析

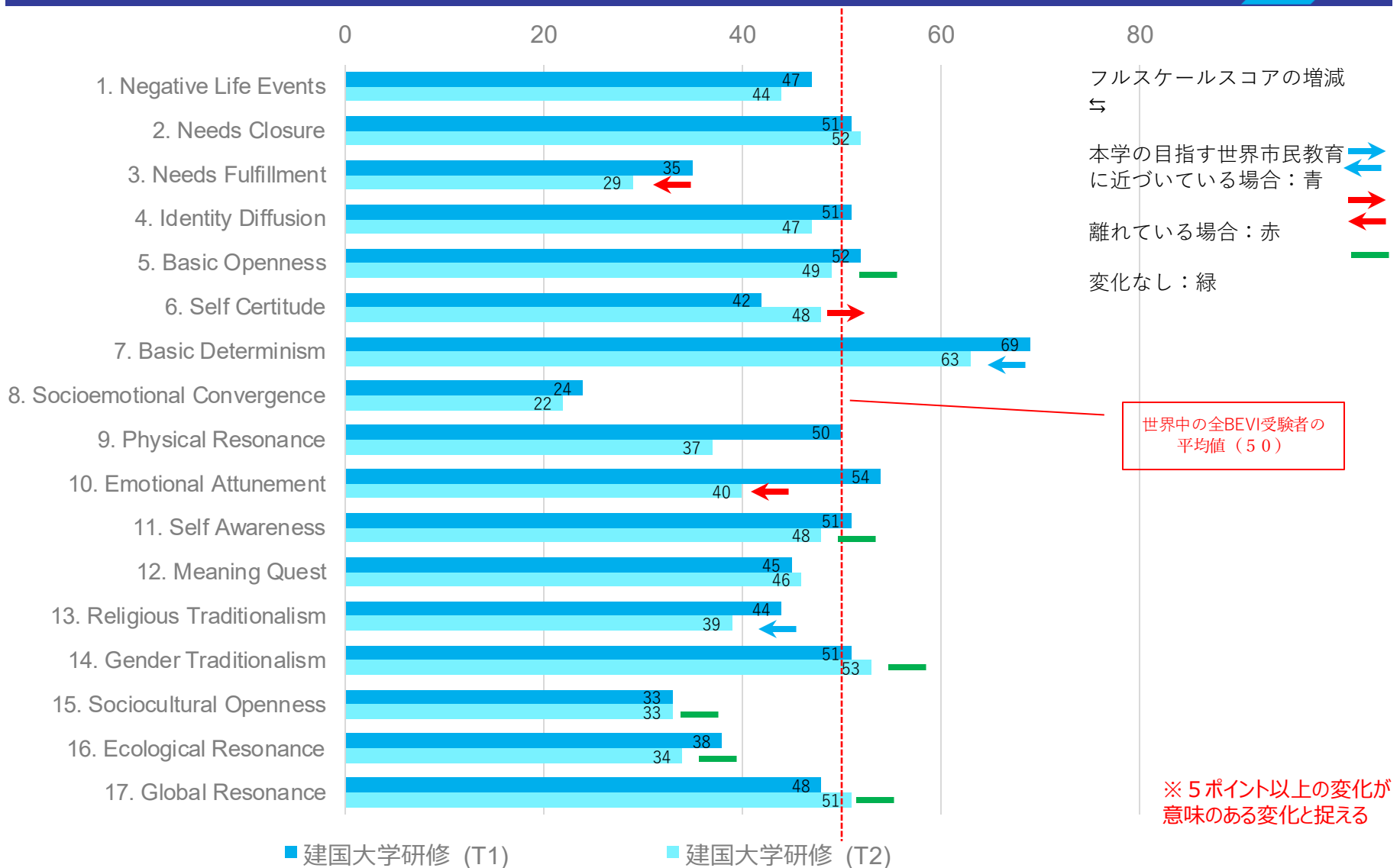
期間： 2025年8月7日～8月22日

参加者： 11名

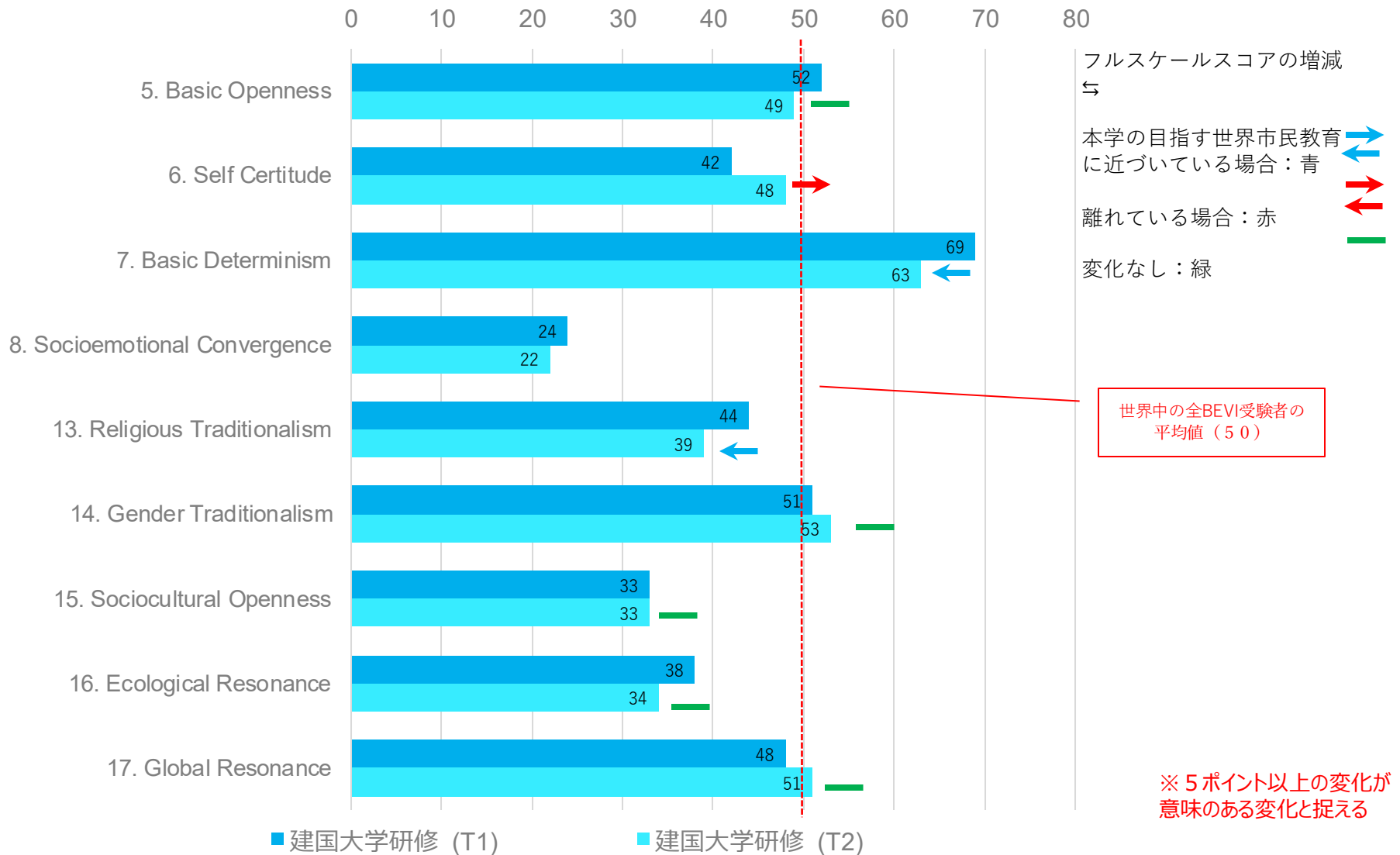
研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 建国大学研修 N=10



国際部 建国大学研修 N=10 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 オストラヴァ大学研修】 のBEVIによる分析

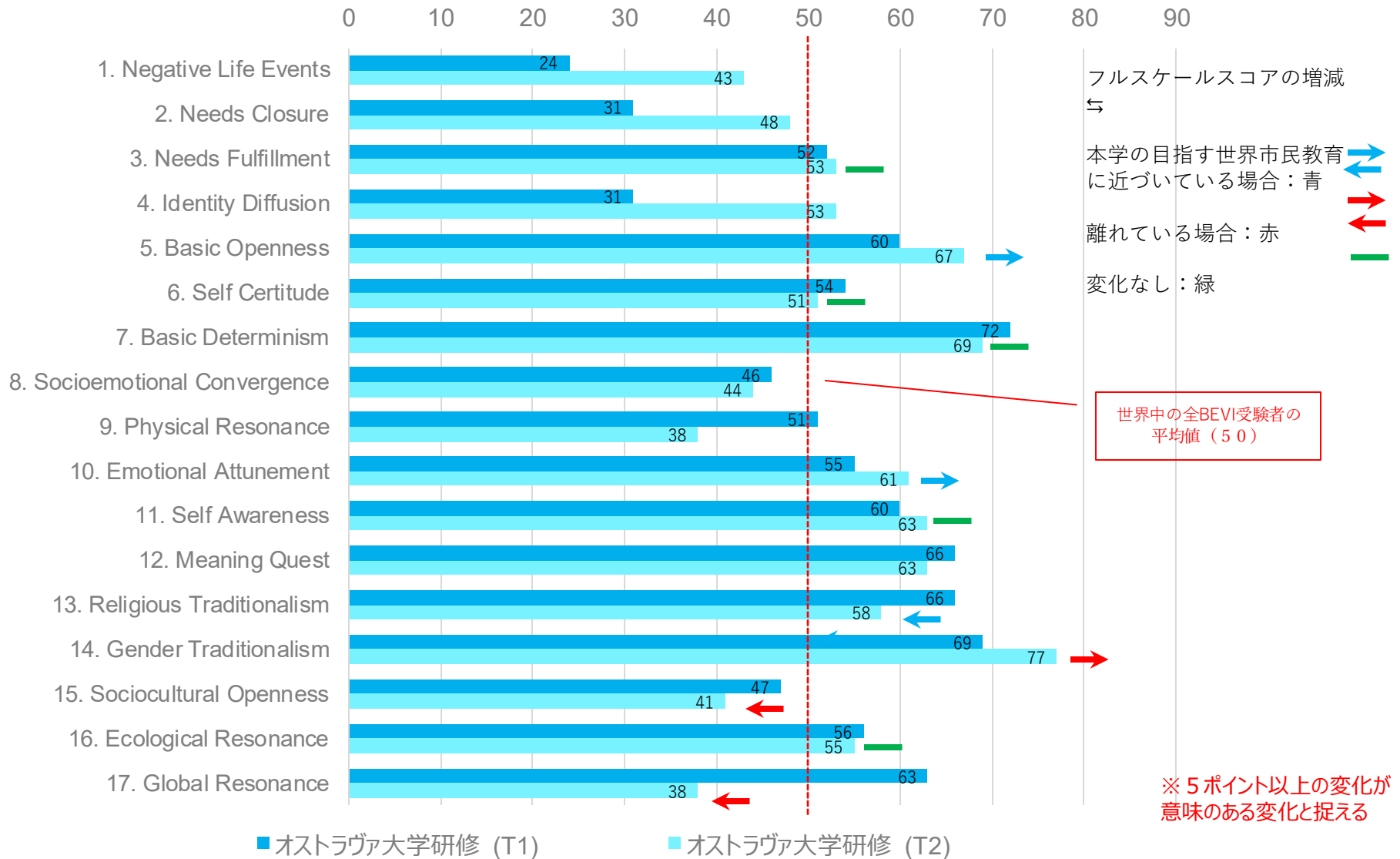
期間： 2025年8月16日～8月31日

参加者： 7名

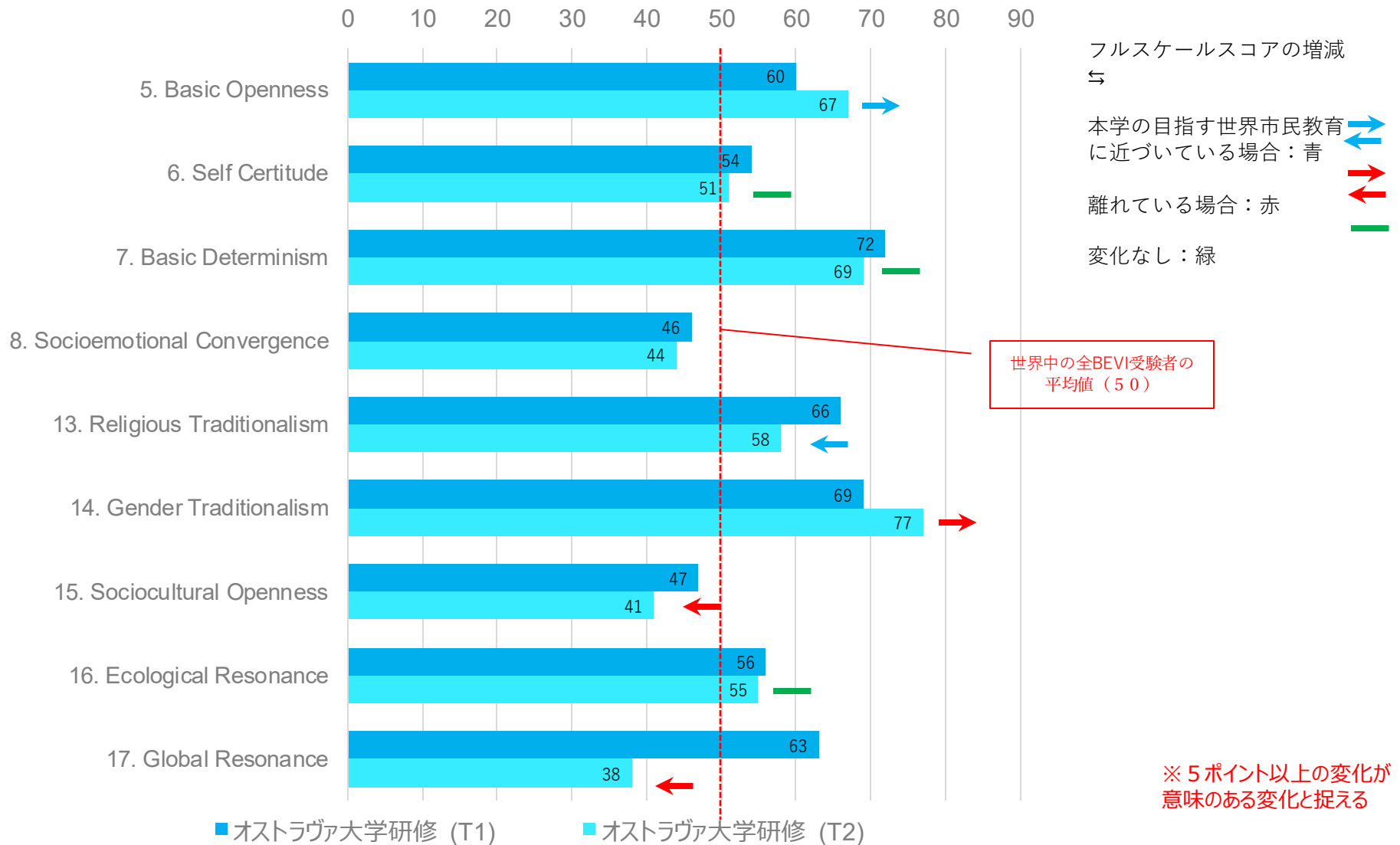
研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 オストラヴァ大学研修 N=6



国際部 オストラヴァ大学研修 N=6 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 ケニア・ボランティア】 のBEVIによる分析

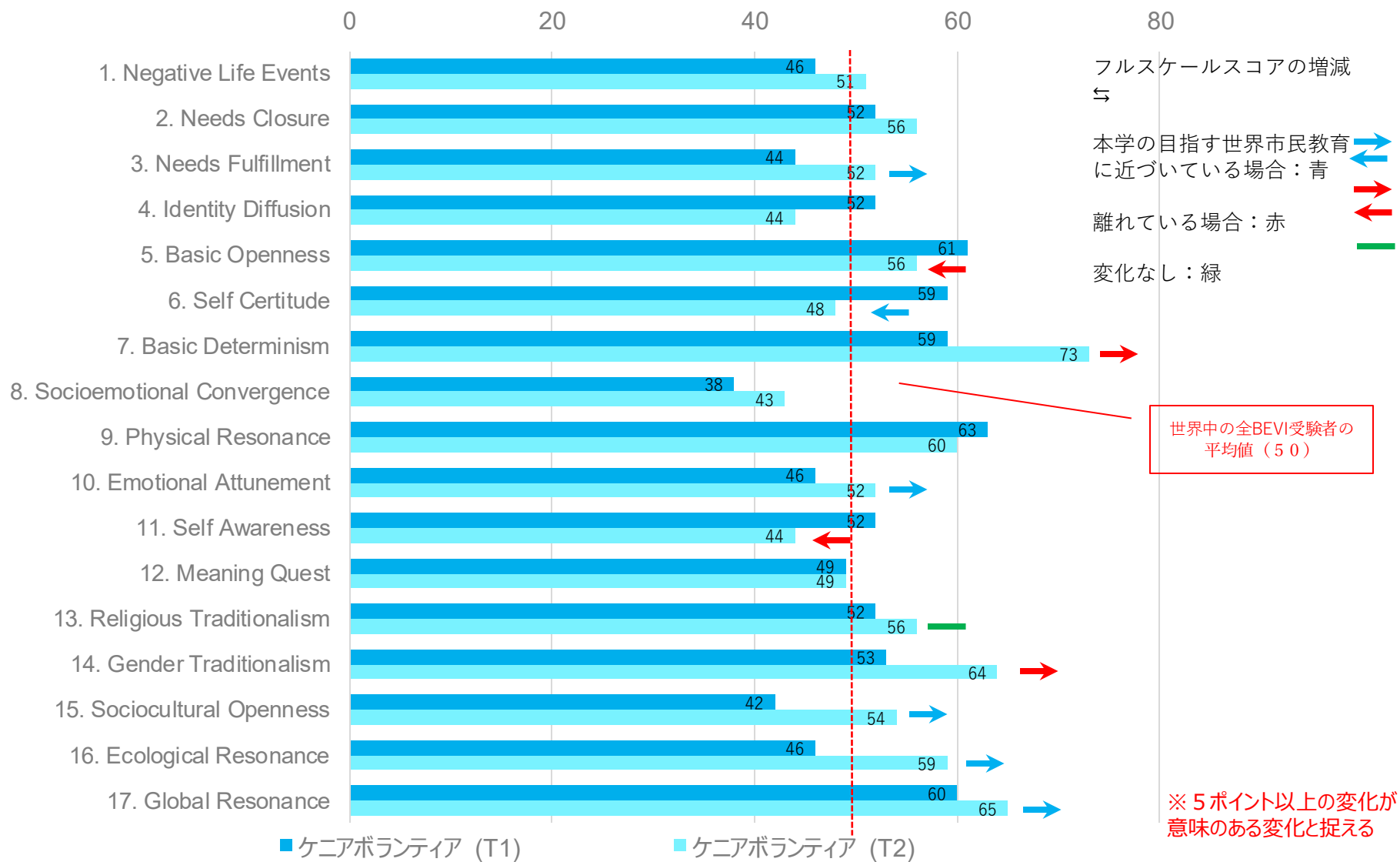
期間： 2025年8月2日～8月24日

参加者： 13名

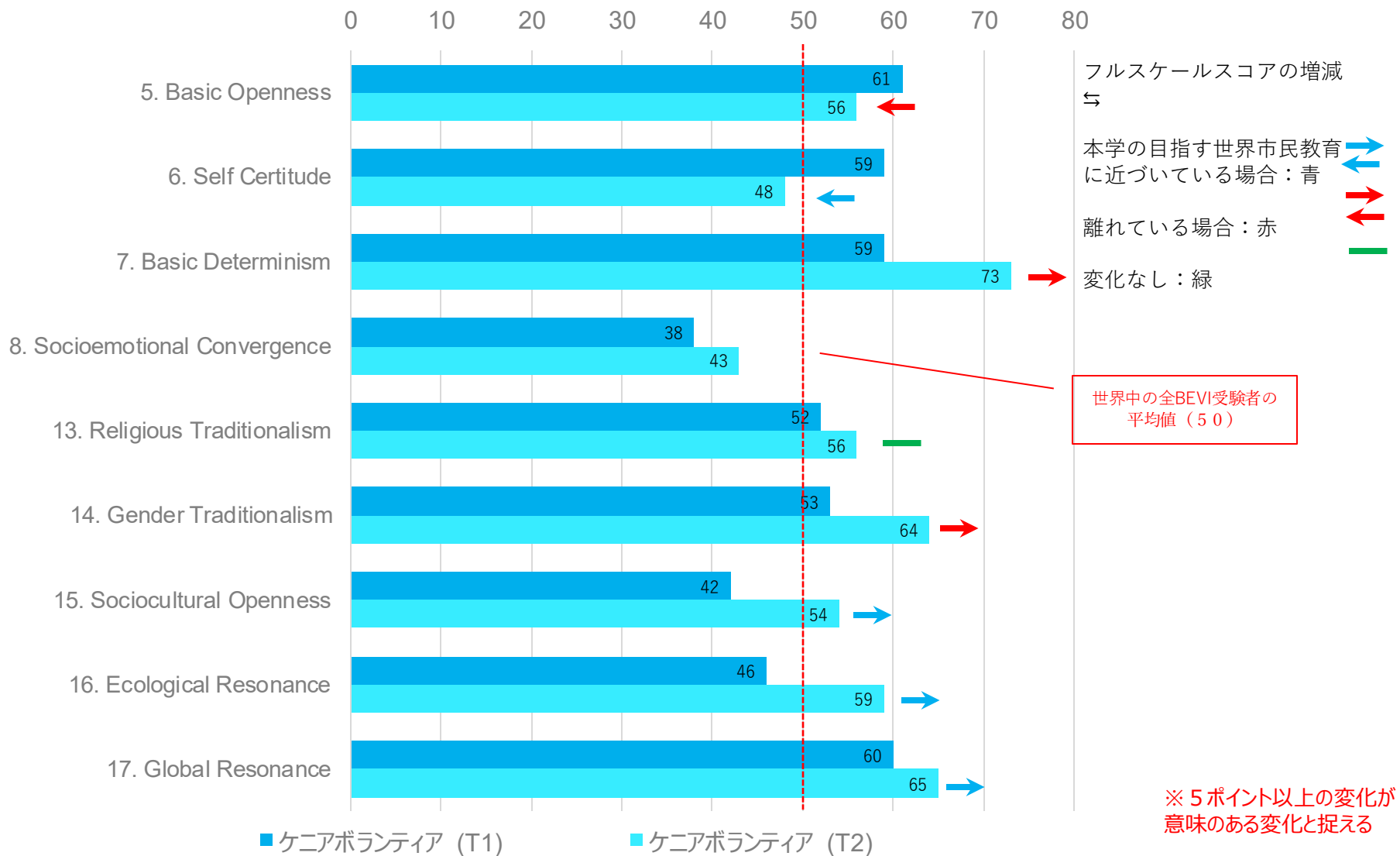
研修目的： ボランティア

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める ②英語の学習と使用に対する自信を高める ③さまざまな交流活動を通じて異文化を探求する

国際部 ケニア・ボランティア N=12



国際部 ケニア・ボランティア N=12 (尺度5~8, 13~17)





【WLC イースト大学研修】 のBEVIによる分析

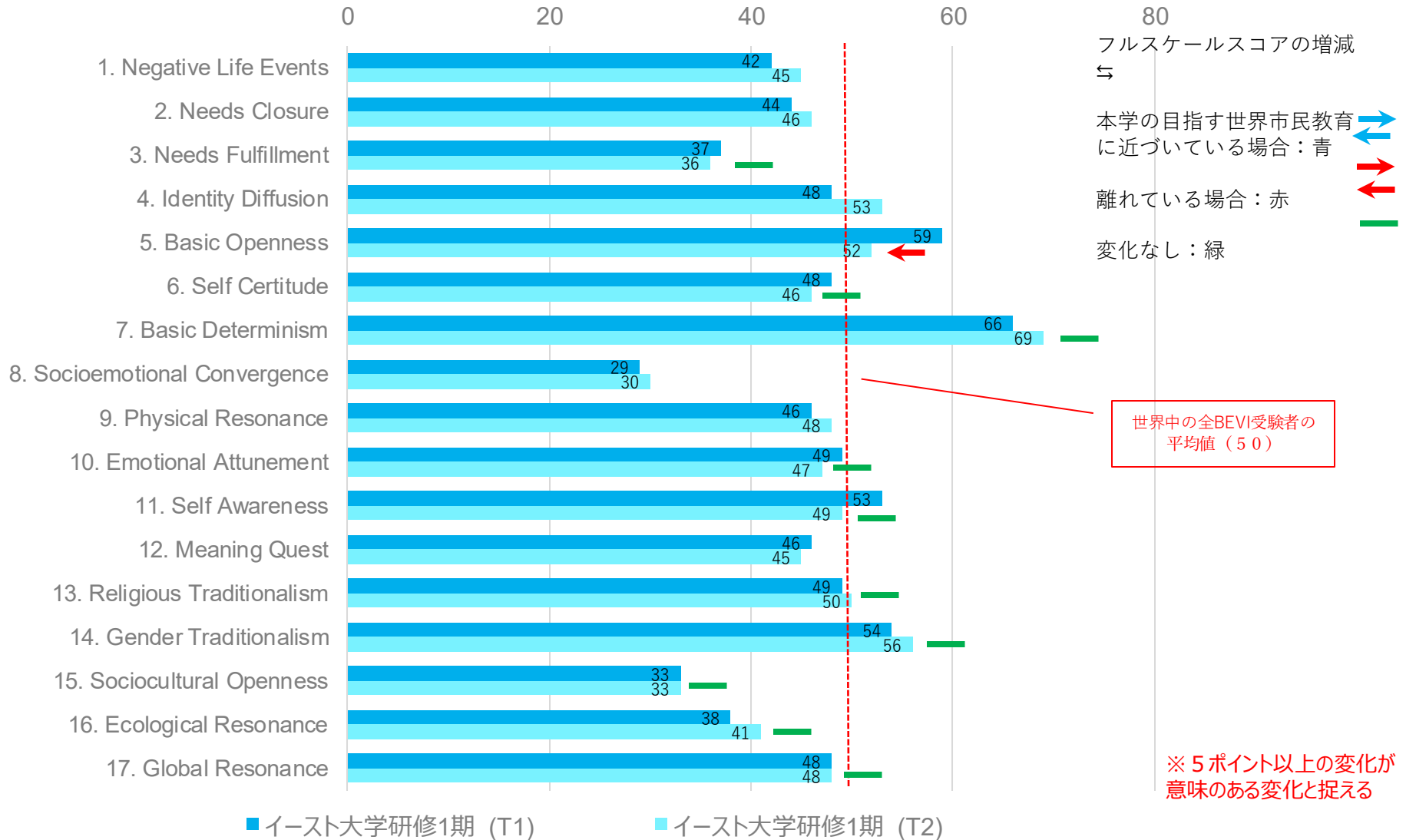
期間: 2025年8月3日 ~8月13日

参加者: 32名

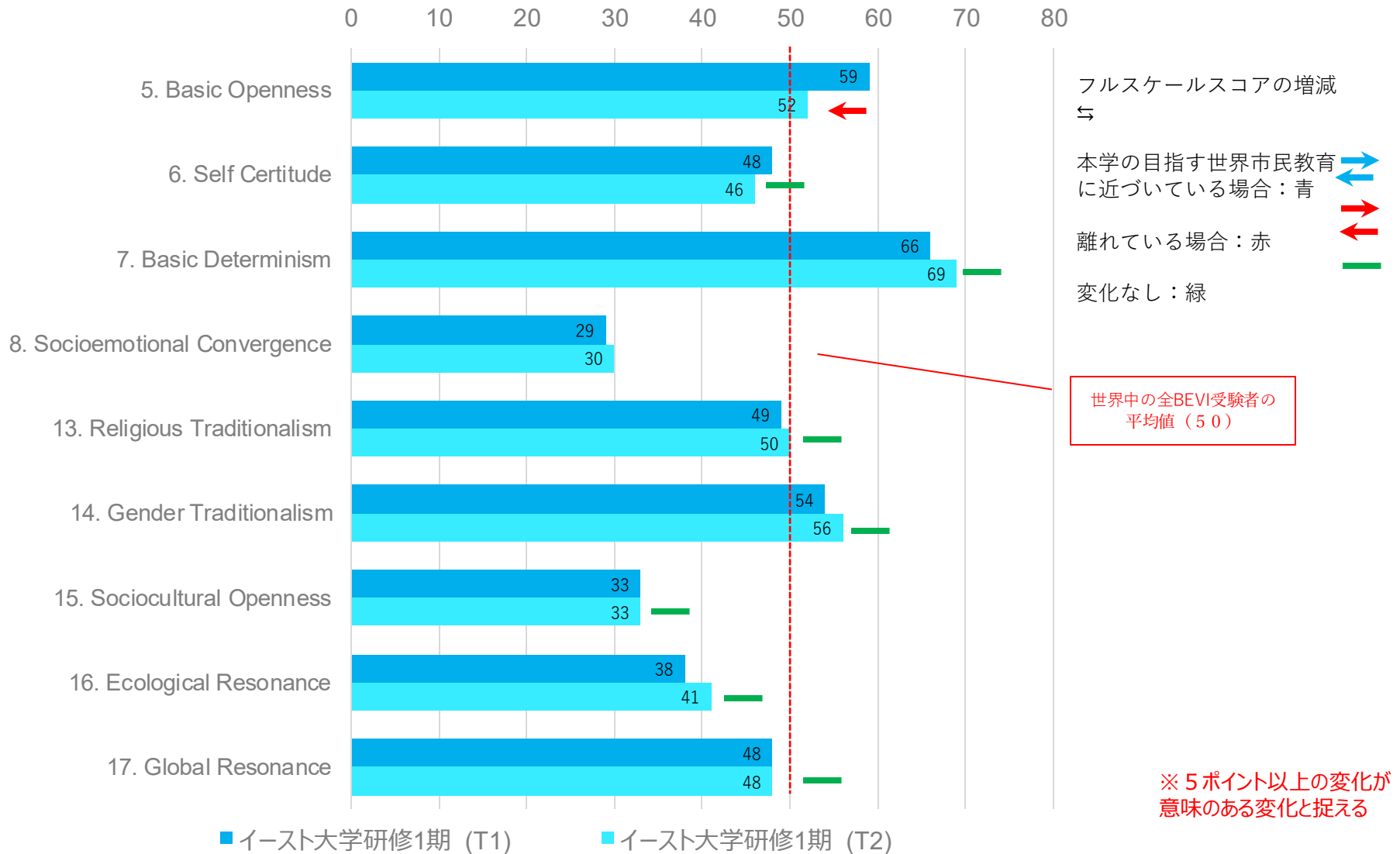
研修目的: 語学研修

研修内容: 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

WLC イースト大学研修 N=24



WLC イースト大学研修 N=24 (尺度5~8, 13~17)



参考資料

グループ平均（まとめ）

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容（またはその否定）、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのように行動するのかを説明しようとする思考パターンなどの「中心的本質」の全体スコアをあらわします。
- **青色**: 本学の目指す世界市民教育に近づいている
- **赤色**: 本学の目指す世界市民教育から離れている
- **緑色**: 変化がなかった尺度

フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-1.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期研修 -グリフィス大学 研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期-ラ プラプセブ国際 大学(LCI C)研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
国際部-短期-魯 迅文化基金会紹 興市サマーキャ ンプ	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期研修-グリフィス大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-短期-ラプセブ国際大学(LCI C)研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-短期-魯迅文化基金会紹興市サマーキャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.1）



研修名	② 形成的因子 (Formative Variables)	③ 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④ 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤ 批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期-トウクアブドゥルラーマン大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期-建国大学研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が強くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・ より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ-2.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期-トゥ ンクアブドゥル ラーマン大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期-建国 大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期研修- オストラヴァ大学 研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-ボラン ティア-ケニア・ ボランティア	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期研修-オストラヴァ大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-ボランティア-ケニア・ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 WLC主催研修（まとめ）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
WLC-短期-イースト大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑制する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)		⑧世界の理解 (Global Access)
	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15) 		<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)



SOKA University